

2022年度

**大学院人間科学研究科臨床心理学専攻
シラバス**

 **西南学院大学大学院**

講義科目一覧

人間科学特論Ⅰ〔オムニバス〕	1
人間科学特論Ⅱ〔オムニバス〕	2
臨床心理学特論Ⅰ〔進藤 啓子〕	3
臨床心理学特論Ⅱ〔花田 利郎〕	4
臨床心理面接特論(心理支援に関する理論と実践)〔浦田 英範〕	5
臨床心理面接特論Ⅱ〔進藤 啓子〕	6
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)〔井上 久美子〕	7
臨床心理査定演習Ⅱ〔花田 利郎〕	8
臨床心理基礎実習〔進藤啓子、花田利郎、本田由布子、花田日登美、矢永由里子〕	9
臨床心理実習ⅠA(心理実践実習)〔井上久美子、進藤啓子、花田利郎〕	10
臨床心理実習ⅠB(心理実践実習)〔浦田英範、小川邦治、調恵子、渡邊真奈美、福永聡子〕	11
臨床心理実習Ⅱ〔小川邦治、浦田英範、調恵子、渡邊真奈美、福永聡子〕	12
臨床心理実習Ⅲ(心理実践実習)〔井上 久美子、浦田英範、小川 邦治、進藤 啓子、花田利郎〕	13
臨床心理実習Ⅳ(心理実践実習)〔井上 久美子、浦田 英範、小川 邦治、進藤 啓子、花田利郎〕	14
臨床心理実習Ⅴ(心理実践実習)〔井上 久美子、浦田 英範、小川 邦治、進藤 啓子、花田利郎〕	15
心理統計法特論〔安藤 花恵〕	16
臨床心理学研究法特論〔税田 慶昭〕	17
発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)〔井上 久美子〕	18
認知心理学特論〔中村 奈良江〕	19
社会心理学特論〔柳澤 さおり〕	20
家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)〔徳田 智代〕	21
臨床心理関連行政論〔高橋 幸市〕	22
精神医学特論(精神医療分野に関する理論と支援の展開)〔鈴木 智美〕	23
老年心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)〔久 桃子〕	24
障害児者心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)〔花田 利郎〕	25
投映法特論〔浦田 英範〕	26
グループ・アプローチ特論〔井上 久美子〕	27
学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)〔細川 美幸〕	28
犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)〔富永容子〕	29
産業臨床心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)〔小川 邦治〕	30

健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)〔岡村 尚昌〕	31
臨床心理学演習〔進藤 啓子〕	32
臨床心理学演習〔浦田 英範〕	33
臨床心理学演習〔柳澤 さおり〕	34
臨床心理学演習〔花田 利郎〕	35
臨床心理学演習〔井上 久美子〕	36
臨床心理学演習〔小川 邦治〕	37

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 人間科学専攻

講義科目名	人間科学特論 I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	倉元綾子・中村奈良江・倉田康路			
【講義の到達目標及びテーマ】				
人間科学に関する専門的職業人としての社会的責任及び倫理観を取得するために、人間科学に関する3領域(教育・社会福祉・心理)における基本的な考え方や研究倫理について学修する。				
(中村)問題の本質を見つけるための方法論を学ぶことによって、自分の研究に適した方法を見つけ出す事を目標とする。				
(倉元)家政学・生活科学の立場から、人間(子どもや家族)にかかわる今日的課題を包括的、全体的に検討する。解決の方向性を探ることができるようになることを目標とする。				
(倉田)社会福祉学の立場から、人間と社会との関係や結びつきについて検討する。社会福祉に関する諸問題を取り上げ、問題解決の具体的な方策を提起することができるようになることを目指す。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	家政学・生活科学のエコシステム理論	倉元	『家政学再考:アメリカ合衆国における女性と専門職の歴史』ステイジ、ヴァンセンティ編、倉元訳、近代文芸社、2002(購入については倉元まで)プリントを配布する。	
2	家政学・生活科学成立の歴史			
3	家政学・生活科学の諸領域			
4	SDGsと家政学・生活科学			
5	人間科学研究における研究倫理について	中村	使用しない。プリントを配布する。	
6	心理学の研究分野と研究の立場			
7	典型的な実験心理学の研究方法与論文例			
8	典型的な調査を用いた研究方法と論文例			
9	典型的な観察法を用いた研究方法と論文例			
10	人間と社会の関係	倉田	使用しない。プリントを配布する。	
11	現代社会に発生する生活問題			
12	人間科学と社会福祉			
13	社会福祉の構造			
14	社会福祉の実践			
【事前・事後学習、時間等】				
(倉元)事前にテキストの関連ページまたは配布資料を読んでおくこと。報告資料作成と疑問点整理をしておくこと。				
(中村)前もって配られた論文に目を通しておく。授業日に配布された資料に再度目を通し不明瞭な点を明らかにしておく。				
(倉田)事前に指示されたことを実施したうえで臨むこと。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
(倉元)適宜コメントし、全員で協議、検討する。				
(中村)研究の計画が目的に応じて成り立っているかを議論し、問題点を整理する。				
(倉田)適宜コメントし、全員で協議、検討する。				
【成績評価方法・基準】				
(倉元)議論への参加状況、コメント用紙、レポート提出により評価する。				
(中村)心理学の実験例をもとに各自のテーマに沿った研究計画のレポートを課し、それを評価する。				
(倉田)議論を踏まえ、レポートの提出により評価する。				
【履修上の注意】				
本授業は、一部回数を遠隔で実施する(履修者にはMoodle等で別途詳細を連絡)場合がある。なお、遠隔授業を行う回は、主にMoodle及び電子メールを用いたオンデマンド型コースまたはオンデマンド・コンテンツに同時双方向テレビ会議システムを組み合わせた型とする。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 人間科学専攻

講義科目名	人間科学特論II	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	前半：田中理絵 / 後半：山根 明弘			
【講義の到達目標及びテーマ】				
現代社会の変容に伴って複雑化する人間及び社会の問題を考察するための根本的な視点を養い、生命の尊厳や社会的存在としての人間に関して、より深い理解を習得することを目標とする。				
【講義概要】				
毎回のテーマに関する基礎的用語・学説を学んだ後、履修者による発題およびそれに対する質疑・討論・解説を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	社会的人間の形成(科学的に人間発達を学ぶ意味)			田中
2	言語獲得と自我の形成			田中
3	子どもの社会的世界(家族集団、仲間集団、学校集団)			田中
4	アイデンティティの形成			田中
5	社会的役割の形成と人間発達(職業・配偶者の選択)			田中
6	家庭的役割の形成			田中
7	高齢者になるということ			田中
8	生と死の倫理学①:生殖補助医療について			山根
9	生と死の倫理学②:男女産み分けについて(出生前診断)			山根
10	生と死の倫理学③:デザイナーベビーについて(着床前診断)			山根
11	生と死の倫理学④:ガンの告知と安楽死について			山根
12	生命科学と倫理学①:クローンとクローン技術について			山根
13	生命科学と倫理学②:遺伝子組換え作物(GMO)について			山根
14	生命科学と倫理学③:遺伝子検査と個人情報の保護について			山根
【テキスト】				
【前半：田中講義分】住田正樹著(2021)『人間発達論』放送大学叢書				
【参考書・参考資料等】				
テーマに応じて、その都度、紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回、発題者による発表を行う。文献リサーチ、発表準備のため2~3時間を要する。発表用のレジユメを作成・コピーすること。事前事後併せて各回2コマ分の学習時間を目安とする。				
【課題の種類・内容】				
テーマに応じた文献調査と発表準備、考察が主な課題となる。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業内での討論並びに、発表内容へのコメントが中心となる。				
【成績評価方法・基準】				
発表内容や議論への積極的参加などの平常点(60%)と、レポート等の課題の評価(40%)によって総合的に判断する。				
【履修上の注意】				
特になし。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学特論 I	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	進藤啓子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
臨床心理学の歴史、対象および援助論についての知識を学び、さらに臨床心理学の倫理問題について思考力と判断力を学ぶことを目的とする。これらを履修することで倫理的な考えを持つ心理職の構えができ、また対象に応じて必要な対応を考える力を身に付けることができる。				
【講義概要】				
臨床心理学の定義、成り立ちについて学び、また、対象を様々な視点から見ることができるとともに、援助法についても学習する。さらに臨床心理士としての倫理についても学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	臨床心理学の成り立ち(歴史)および定義について、			
2	臨床心理士の資格制度および養成の課題と現状、臨床心理士の働く場について			
3	臨床心理学の対象1(健康と異常について)			
4	臨床心理学の対象2(病理など心の問題について)			
5	臨床心理学の対象3(病理などの心の問題と予防について)			
6	臨床心理学の対象4(発達上の問題について)			
7	臨床心理学の対象5(生涯発達と予防について)			
8	臨床心理学の援助論1(理論モデル)			
9	臨床心理学の援助論2(個人モデル)			
10	臨床心理学の援助論3(集団介入)			
11	臨床心理学におけるケースと倫理について1			
12	臨床心理学におけるケースと倫理について2			
13	臨床心理学の課題と展望について			
14	まとめと評価			
【テキスト】				
なし。適宜提示する				
【参考書・参考資料等】				
下山晴彦編「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房、伊原千晶、編「臨床心理の法と倫理」日本評論社				
【事前・事後学習、時間等】				
わからない専門用語を調べ、提示された内容を予習をしておくこと。60分程度の学習				
【課題の種類・内容】				
心理対象の種類について、倫理についての課題、等で復習できるような内容とする				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業内でコメントしてフィードバックする				
【成績評価方法・基準】				
授業への参加(60%)、レポート課題(40%)で評価する。				
【履修上の注意】				
欠席をしないこと。授業では、心理職には表現力が必要なので積極的に質問や意見を出して参加すること。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学特論Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	花田 利郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本講義は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び3を修得に関連する科目である。臨床心理士に期待される学習課題(臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理学的地域援助、臨床心理学的調査・研究)の概要について理解し説明できること、さらに、心理臨床に関わる周辺領域の基本的知識の概要について理解し、説明できることがゴールとなる。</p>				
【講義概要】				
<p>臨床心理士に期待される学習課題、知っておくべき周辺領域に関する知識、心理臨床に関連する心理学の基礎知識について概観する。臨床心理学特論Ⅰを踏まえ、受講者の興味・関心に沿って各自のテーマを設定し、報告を求める。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション			
2	臨床心理査定			
3	臨床心理面接			
4	心理臨床の領域			
5	臨床心理学的地域援助			
6	臨床心理士と研究・調査			
7	心理臨床(家)と精神医学的知識			
8	臨床心理学、心理臨床の倫理			
9	心理臨床とスーパービジョンおよび研修			
10	心理臨床活動に関する関係法規			
11	関連する心理学の基礎知識①【意識と無意識】			
12	関連する心理学の基礎知識②【適応と不適応】			
13	関連する心理学の基礎知識③【パーソナリティ】			
14	関連する心理学の基礎知識④【ライフサイクル】			
【テキスト】				
なし(適宜資料を配布する。)				
【参考書・参考資料等】				
<p>野島一彦編著「臨床心理学への招待」ミネルヴァ書房 下山晴彦 編「よく分かる臨床心理学」ミネルヴァ書房</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>発表の担当者となった場合には、責任をもって発表資料及びプレゼンテーションの準備をして臨むこと。 自分の発表日の1週間前に発表資料を他の参加者に配布しておくこと。 発表の担当者でない場合は、発表資料を元に予習を行い、授業当日に積極的に質疑や討論を行えるようにしておくこと。 発表担当者か否かによりその配分は異なるが、毎回4時間程度の事前・事後学習時間が必要である。</p>				
【課題の種類・内容】				
担当箇所についてのプレゼンテーションの準備、振り返りレポートの作成				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中にプレゼンテーションに対してコメントを行う。				
【成績評価方法・基準】				
事前準備を含めた授業への取り組み、授業後のミニ・レポート(70%)、期末レポート(30%)で評価を行う。				
【履修上の注意】				
授業中に課す課題に意欲的に取り組み、討論にも意欲的な態度で臨むこと。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理面接特論 (心理支援に関する理論と実践)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	浦田英範			
【講義の到達目標及びテーマ】				
力動的心理療法がどのようなものか理解し説明することができる。力動的心理療法のエビデンス、適用や限界について理解し説明することができる。				
【講義概要】				
精神分析とは何かを理解し、精神分析的心理療法の考え方、アセスメント、支援の方法の基礎を話す。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション、心理療法とは何か			
2	精神分析とは。			
3	精神分析的心理療法とは何か。			
4	自我とは何か。			
5	自我の査定			
6	査定の実際			
7	精神分析的心理療法の基礎知識			
8	精神分析的心理療法の治療構造、対象と方法、面接者の態度とラポール			
9	転移と逆転移とは、抵抗について			
10	解釈とは何か。洞察について			
11	実際の進め方、支持的介入の方法			
12	分析的介入の方法			
13	面接の経過			
14	総括			
【テキスト】				
前田重治著 2014「新図説精神分析的面接入門」誠心書房				
【参考書・参考資料等】				
土居健郎 著 1992「新訂方法としての面接」医学書院 平木典子 著 2004「新版 カウンセリングの話」朝日新聞出版				
【事前・事後学習、時間等】				
教科書を事前、事後に読んでおくこと。わからない用語や言葉は調べておくこと。(1時間程度)				
【課題の種類・内容】				
担当の章のレジюмеを作成すること。A4 2から4枚程度にまとめること。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
まとめたレジюмеの発表と同時にディスカッションを行う。それと同時にレジюмеの内容についてコメントする。				
【成績評価方法・基準】				
レジюмеのまとめ40%、発表40%、ディスカッション20%				
【履修上の注意】				
教科書を中心に進めるが、精神分析的心理療法の基礎をマスターするためにわからないことは積極的に質問すること。ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えを述べること。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理面接特論Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	進藤啓子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
介入技法としての心理療法の基本を理解し技能を習得する。また共感の方法を学び、クライアントへの寄り添い方を学習する。その効果を理解する。これらの知識と技能を習得することにより実際の臨床場面をイメージすることができる。				
【講義概要】				
介入とは何か。介入における理論と技法について、特にクライアント中心療法、行動療法について講義をする。ロールプレイを通して、具体例を通して技法の違いを学ぶ。遊戯療法や箱庭療法についてもその概要を学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション、心理療法とは何か			
2	クライアント中心療法とは何か：調べる・発表			
3	クライアント中心療法の実際：ロールプレイを通して学習			
4	行動療法とは何か：調べる・発表			
5	行動療法の実際：ロールプレイを通して学習			
6	心理的に適応できない状態と適応できている状態とは何か：ロールプレイを通して学習			
7	認知行動療法：調べる・発表			
8	認知行動療法の実際：VTRを通して方法を学びイメージを作る			
9	認知行動療法の実際：ロールプレイを通して学習			
10	遊戯療法について：VTRを通しての理解			
11	信頼を結ぶ面接方法について考える1：VTRを通して考えてみよう			
12	信頼を結ぶ面接方法について考える2：VTRを通して考えてみよう			
13	箱庭療法について：VTRを通しての理解			
14	まとめと振り返り			
【テキスト】				
適宜資料を配る。				
【参考書・参考資料等】				
佐治守夫、飯長喜一郎編「新版ロジャースクライアント中心療法」有斐閣2011。山上敏子・下山晴彦著「山上敏子の行動療法講義」金剛出版、2010。窪内節子・吉武光世共著「やさしく学べる心理療法の基礎」培風館、2003。				
【事前・事後学習、時間等】				
参考図書を読んでおくこと。専門用語やわからない用語を復習し、それらの意味を理解すること。60分程度の学習。				
【課題の種類・内容】				
課題は「クライアント中心療法」「行動療法」「認知行動療法」についてまとめる・発表する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
課題は次の演習の時に、内容を説明しフィードバックする。さらにロールプレイの内容をフィードバックする課題を振り返る。				
【成績評価方法・基準】				
発表課題のまとめ40%、課題30%、ディスカッション30%				
【履修上の注意】				
欠席をしないこと。講義中わからないことは、積極的に質問すること。ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えを述べること。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	井上久美子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本講義では、心理職に求められる臨床心理アセスメントについて概説しながら、アセスメントの目的や流れを学ぶ中で、以下の能力を修得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理アセスメントに関わる専門的知識及び技法について理解し実践することができる。 ・心理アセスメントを行っていくうえで必要とされる倫理意識や責任感について深く考えることができる。 				
【講義概要】				
<p>前半は、臨床心理アセスメントの基本を学び、また具体的な状況を想定しながら、臨床心理アセスメントの知識を身につける。後半は、各種の心理検査を取り上げ、検査に関するロールプレイを行いながら、臨床心理アセスメントにおける心理検査の意味とその役割について学ぶ。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	臨床心理アセスメントの基本			
2	臨床心理アセスメントとは何か			
3	臨床心理アセスメントにおける倫理			
4	臨床心理アセスメントの方法(面接法概論)			
5	初回面接における見立てと方針			
6	臨床心理アセスメントの方法(心理検査法概論)			
7	心理検査施行前の留意点			
8	心理検査導入時の留意点			
9	人格検査の概要(質問紙法および投映法)			
10	人格検査(質問紙法)の演習(検査の導入と実施)			
11	人格検査(質問紙法)の演習(検査結果と解釈)			
12	人格検査(描画法)の演習(検査の導入と実施)			
13	人格検査(描画法)の演習(検査結果と解釈)			
14	まとめ			
【テキスト】				
沼初枝著「臨床心理アセスメントの基礎 第2版」(ナカニシヤ出版、2020年)				
【参考書・参考資料等】				
津川律子・篠竹利和著「シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査」(誠信書房、2010年)				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>臨床心理アセスメントについての知識を深めることは心理職を目指す上で必須のことである。自己学習による復習が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に課す課題レポートについて参考論文や書籍を調べながら作成すること(3時間以上)。 ・授業中に説明される臨床心理アセスメントの用語について、その都度自ら関連する書籍等を通して復習を行い、知識の定着に努めること(2時間程度) 				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
検査の演習に取り組む態度、プレゼンテーションの内容及び授業中にレポートから総合的に評価する。				
【履修上の注意】				
授業中に課す課題に意欲的に取り組み、討論及び心理検査のロールプレイにも意欲的な態度で臨むこと。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理査定演習Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	花田 利郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本講義は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び3の修得に関連する科目である。心理アセスメントの一つのツールである心理検査に関する技法を習得することを目的とする。各種検査(発達検査、知能検査、性格検査)について、実施と所見及び報告者に合わせた報告書類の作成ができることが目標となる。心理的査定の意味を踏まえ、理論と方法を学び、心理に関する相談、助言、指導等の際にそれらを活かせるようになることがゴールとなる。</p>				
【講義概要】				
<p>臨床心理査定演習Ⅰを踏まえ、各種検査について理論、実施の仕方、解釈の仕方、報告の仕方について理解を深める。その際に、被検査者体験、検査者のロールプレイ(実施、報告)、および受講者による発表およびディスカッション等を行う。心理検査は受講者のこれまでの学習状況(理解状況)に応じて取り上げる。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション、臨床心理援助の実践における心理アセスメントの意義			
2	検査の理論および実施法の外観(理論と方法)			
3	発達の査定(発達検査)① 理論			
4	発達の査定(発達検査)② 実施法			
5	発達の査定(発達検査)③ 解釈法(結果の整理と解釈)			
6	知能の査定(知能検査)① 被検査者体験(集団式)			
7	知能の査定(知能検査)② 被検査者体験(個別式)			
8	知能の査定(知能検査)③ 理論			
9	知能の査定(知能検査)④ 実施法			
10	知能の査定(知能検査)⑤ 採点、結果の整理			
11	知能の査定(知能検査)⑥ 解釈			
12	性格の査定(性格検査)① 被検査者体験			
13	性格の査定(性格検査)② 理論、実施			
14	性格の査定(性格検査)③ 結果の整理、解釈			
【テキスト】				
なし(適宜資料を配布する。)				
【参考書・参考資料等】				
<p>遠城寺式乳幼児分析的発達検査法(マニュアル)／WISC-Ⅳ 知能検査 実施・採点マニュアル、理論・解釈マニュアル WAIS-Ⅳ知能検査 実施・採点マニュアル、理論・解釈マニュアル 田中ビネーⅤ 検査法(理論マニュアル、実施マニュアル、採点マニュアル) 沼初枝著「臨床心理アセスメントの基礎」(ナカニシヤ出版、2009年)※臨床心理査定演習Ⅰテキスト</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>発表の担当者となった場合には、責任をもって発表資料及びプレゼンテーションの準備をして臨むこと。 自分の発表日の1週間前に発表資料を他の参加者に配布しておくこと。 発表の担当者でない場合は、発表資料を元に予習を行い、授業当日に積極的に質疑や討論を行えるようにしておくこと。 発表担当者か否かによりその配分は異なるが、毎回4時間程度の事前・事後学習時間が必要である。</p>				
【課題の種類・内容】				
レポートの作成、マニュアルの精読				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中に発表に対してコメントを行う。				
【成績評価方法・基準】				
事前準備を含めた授業への取り組み、授業後のミニ・レポート(80%)、期末レポート(20%)で評価を行う。				
【履修上の注意】				
授業中に課す課題に意欲的に取り組み、討論にも意欲的な態度で臨むこと。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理基礎実習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	進藤啓子・花田利郎・本田由布子・花田日登美・矢永由里子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本授業は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1、3を修得するための科目である。大学院で行われる臨床心理実習の基礎段階として、知識に基づいた基本的な臨床技術の習得を到達目標とする。具体的には、以下の①～⑤がテーマとなる。①内的な思考訓練を行うことによって臨床心理士としてのアイデンティティを涵養し、実習に臨むに際して身に付ける素養を培う。②臨床心理実践の事例を通して臨床像の見立て方を学習する。③臨床心理相談室において臨床心理士が行うインテーク面接への陪席、ケースカンファレンスの参加などの実習体験により、心理面接の実際的、基本的な知識や技術を習得する。④任意実習として、福祉・教育の領域で実際に利用者とかかわることを通じて、臨床心理士として必要な基礎的な態度や技術を身に付ける。</p>				
【講義概要】				
<p>基礎実習では自己内省および自己理解を促す授業を中心に進めていく。前半は心理相談室の理解と事例を用いてグループ(カウンセラー役、CL役、記録役)でロールプレイを行い面接体験をしつつ、臨床像の捉え方と見立て方について学習する。後半は、前半の面接体験をさらに深めるとともに、臨床心理センター(臨床心理相談室)での事例検討会に参加し見立てる力ができるようにする。さらに1年間を通じて心理業務の倫理について学ぶとともに、任意実習を通して対象者とのかかわりを体験しながら理解を深める。全体を通してロールプレイを行い体験学習を行う。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	オリエンテーション(自己紹介、授業内容の予定・内容の説明)、臨床心理士の仕事の理解。	15	オリエンテーション、臨床心理士としての自分の振り返り。	
2	臨床心理士の5領域の理解(医療・教育・福祉・司法・産業領域)	16	事例作成	
3	インテークと事例作成	17	面接における援助技術を深める:面接のつなぎ方について(事例を通して)	
4	インテーク面接の意味および意義を知る(ロールプレイの体験による)1	18	面接における援助技術を深める:面接の終わり方について(事例を通して)	
5	インテーク面接の意味および意義を知る(ロールプレイの体験による)2	19	事例を通して学ぶ臨床像の見立て方を深める:ロールプレイの体験による	
6	インテーク面接の体験実習(ロールプレイにより内省をし、シェアリングをする)とその内容を記録する	20	①インテーク陪席、②インテーク資料を作成する(主訴、見立て、方針など)③報告書を作成する。①～③を3回以上行う。	
7	事例を通じた関係法規および倫理について理解する	21		
8	インテークや事例報告の書き方について(事例を通して)	22		
9	症例検討に必要な事例研究の書き方について(事例を通して学ぶ)	23	インテーク陪席をカンファレンスで検討する	
10	ロールプレイでの面接体験1(面接後レポートをまとめる)	24		
11	面接における関係づくりと共感的理解について学ぶ	25		
12	面接における援助技法について:面接のつなぎ方	26		
13	面接における援助について:面接の終わり方	27	ロールプレイをVTRで振り返り、面接技術を検討する	
14	事例を通して学ぶ臨床像の捉え方と見立て/振り返りとまとめ	28	心理業務における倫理について学ぶ/振り返りとまとめ	
【テキスト】				
<p>津川律子 他「初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル」金剛出版、 日本臨床心理士会編「臨床心理士の基礎研修」創元社、 下山晴彦著(2008)「臨床心理アセスメント入門」金剛出版</p>				
【参考書・参考資料等】				
<p>専門用語について事前に調べる。毎回の学習内容を復習し理解を深めること、さらに自分自身の理解についても深めること。</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
【課題の種類・内容】				
<p>課題は、事例作成、ロールプレイの逐語録、自分の振り返り、等を課す。</p>				
【課題に対するフィードバックの方法】				
<p>提出課題は、各先生が添削をしてフィードバックする。</p>				
【成績評価方法・基準】				
<p>演習への参加態度(課題への取り組み方や発表内容)、およびレポートの内容、報告書の内容で評価する。</p>				
【履修上の注意】				
<p>①出席を重視する。欠席するときは必ず事前に担当教員に届けること。②任意実習を行う際には、その指示に従ってください。③インテークカンファレンスおよびケースカンファレンスは1～2年を通して行う。④履修においては学生便覧の「臨床心理実習の履修について」の内容をよく確認しておくこと。</p>				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理実習 I A(心理実践実習)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	2	日本語
担当教員名	井上久美子 進藤啓子 花田利郎			

【講義の到達目標及びテーマ】

本授業は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び3を修得するための科目である。見学実習、学内実習施設(臨床心理センター/臨床心理相談室)における実習、学外実習において、心理に関する支援を要する人に対して関わりながら、以下の1~8の事項について修得すること。

1. 臨床心理センターの役割・昨日・構造について理解し、適切に行動できる。 2. 守秘義務等の倫理について理解し、適切に行動できる。 3. 電話受付を冷静かつ適切に行うことができる。 4. 必要な情報が何かを踏まえてインテーク面接に陪席し、臨床心理学的にクライアントを理解し、見立てと方針をまとめたインテーク資料を作成できる。 5. 適切なテストバッテリーを検討し、知能検査や性格検査を実施・分析・解釈を行い、カンファレンスへの報告資料とクライアントや紹介元へのフィードバック資料を作成できる。 6. 継続面接を担当し、臨床心理学的理解からの見立てと方針の下で、面接関係を築き維持できる。 7. 記録を取り、それらを適切に管理できる。 8. 医療・福祉・教育・産業現場との連携について理解し、適切に行動できる。

【講義概要】

本科目(実習)は、学内実習施設(臨床心理センター/臨床心理相談室)における実践および見学実習を中心に90時間の実習を行うものである。学内実習施設(臨床心理センター/臨床心理相談室)における実践は、電話受付を担当したり、クライアントのインテーク面接に陪席したり、心理検査や継続面接を担当したりすることからなる。それらを実践しながら、前述の目標に到達できるように実習担当教員及び実習指導者が指導を行う。見学実習については、保健医療分野、福祉分野、教育分野について実施する。また、学外実習の準備等も行う。受講者の修得状況を踏まえ、実習前に必要(学修が不十分)と判断されれば、適宜ロールプレイなどの実習も取り入れる。

【講義計画内容】

No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション/臨床心理センターについて		15	オリエンテーション/実習の心構え	
2	臨床心理実習について		16	コンセンサス実習(支援とコミュニケーション)	
3	研修相談員としての職務		17	心理面接の知識と技術①(心理的支援の技法)	
4	心理臨床における倫理①(個人情報保護)		18	心理面接の知識と技術②(心理的支援の実践)	
5	心理臨床における倫理②(電話対応の心構え)		19	見学実習(福祉領域)	
6	電話受付の実際①(事例A)		20	実習先について調べ報告し、ディスカッションを行う。	
7	電話受付の実際②(事例B)		21	個別にふり返りを行い報告し、ディスカッションを行う。	
8			22	見学実習(医療領域)	
9	学外実習の準備を行う。		23	実習先について調べ報告し、ディスカッションを行う。	
10	学外実習を行う際に必要な知識や技術の修得状況に応じて準備を進める。		24	個別にふり返りを行い報告し、ディスカッションを行う。	
11	見学実習(教育領域)		25	発達支援と地域連携(福祉領域)	
12	実習先について調べ報告し、ディスカッションを行う。		26	学外実習の準備と実践(福祉領域)	
13	個別にふり返りを行い報告し、ディスカッションを行う。		27	・実習の心得と理解	
14			28	・実習先の調べ学習 ・実習のねらいと実習計画書の作成	

【テキスト】

なし

【参考書・参考資料等】

友久久雄・吉川悟(2013)「臨床心理実習マニュアル」遠見書房

【事前・事後学習、時間等】

配布する「臨床心理実習の手引き」を通読し、理解しておくこと。

【課題の種類・内容】

課題が課されるので、レポートを作成し、報告する。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習担当教員がカンファレンス及び個別指導においてコメントを行う。

【成績評価方法・基準】

実習生本人の自己評価を踏まえて、実習担当教員が総合的に評価を行う。

実習の達成度の評価基準については、オリエンテーション時に説明を行う。

【履修上の注意】

・時間数が決められた実習であるので、1回でも欠席すると単位の認定が難しくなる(特別な場合を除き欠席が認められない)。

・電話受付業務は、修士2年間を通して担当する。

・履修においては学生便覧の「臨床心理実習の履修について」の内容をよく確認しておくこと。

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理実習 I B(心理実践実習)	通年・前期・後期	単位数	使用言語		
		通年	2	日本語		
担当教員名	浦田 英範 小川 邦治 調 恵子 渡邊 真奈美 福永 聡子					
【講義の到達目標及びテーマ】						
<p>本授業は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び3を修得するための科目である。見学実習、学内実習施設(臨床心理センター/臨床心理相談室)における実習、学外実習において、心理に関する支援を要する人に対して関わりながら、以下の1～8の事項について修得すること。</p> <p>1. 臨床心理センターの役割・昨日・構造について理解し、適切に行動できる。 2. 守秘義務等の倫理について理解し、適切に行動できる。 3. 電話受付を冷静かつ適切に行うことができる。 4. 必要な情報が何かを踏まえてインテーク面接に陪席し、臨床心理学的にクライアントを理解し、見立てと方針をまとめたインテーク資料を作成できる。 5. 適切なテストバッテリーを検討し、知能検査や性格検査を実施・分析・解釈を行い、カンファレンスへの報告資料とクライアントや紹介元へのフィードバック資料を作成できる。 6. 継続面接を担当し、臨床心理学的理解からの見立てと方針の下で、面接関係を築き維持できる。 7. 記録を取り、それらを適切に管理できる。 8. 医療・福祉・教育・産業現場との連携について理解し、適切に行動できる。</p>						
【講義概要】						
<p>本科目(実習)は、学内実習施設(臨床心理センター/臨床心理相談室)における実践を中心に90時間の実習を行うものである。学内実習施設(臨床心理センター/臨床心理相談室)における実践は、電話受付を担当したり、クライアントのインテーク面接に陪席したり、心理検査や継続面接を担当したりすることからなる。それらを実践しながら、前述の目標に到達できるように実習担当教員及び実習指導者が指導を行う。また、学外実習の準備等も行う。受講者の修得状況を踏まえ、実習前に必要(学修が不十分)と判断されれば、適宜ロールプレイなどの実習も取り入れる。</p>						
【講義計画内容】						
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)	
1	オリエンテーション/実習の心構え		15	オリエンテーション/実習の心構え		
2	電話受付を担当する。 臨床心理実習IAとあわせて、2年間を通して担当する。		16	<p>左記に同じ。 以上を通して、上述の1～8、および以下の内容を修得する。</p> <p>1. 心理に関する支援を要する者等との 基本的なコミュニケーションの方法</p> <p>2. 心理に関する支援を要する者等に対する 心理検査および心理面接の知識および技術</p> <p>3. 心理に関する支援を要する者等に対する 地域支援等の知識および技術</p> <p>4. 対象者の理解とニーズの把握及び 支援計画の作成方法</p> <p>5. 心理援助職としての職業倫理及び法的義務</p>		
3	見学実習を行う。		17			
4	実習先について調べ報告し、ディスカッションを行う。 個別にふり返りを行い報告し、ディスカッションを行う。		18			
5	学外実習の準備を行う。		19			
6	学外実習を行う際に必要な知識や技術の修得状況に応じて準備を進める。		20			
7	インテーク面接に陪席する。		21			
8	臨床心理実習IAとあわせて、原則として2つ以上のインテーク面接への陪席を経験する。実施後はインテーク資料を作成し報告を行う。		22			
9	心理査定を担当する。		23			
10	臨床心理実習IAとあわせて、原則として2人以上の心理検査を経験する。テストバッテリーを検討した上で、検査を実施し、報告資料、フィードバック資料を作成し、報告を行う。		24			
11	継続面接を担当する。		25			
12	臨床心理実習IAとあわせて、原則として2人以上の継続面接を経験する。面接の実施後は記録を作成し、適切に管理を行う。		26			
13	適宜導入期報告、経過報告を行う。		27			
14	ふり返りとまとめ		28		ふり返りとまとめ	
【テキスト】						
参考資料・文献を随時提示する。						
【参考書・参考資料等】						
友久久雄・吉川悟(2013)「臨床心理実習マニュアル」遠見書房						
【事前・事後学習、時間等】						
配布する「臨床心理実習 学外実習の手引き」を通読し、理解しておくこと。						
【課題の種類・内容】						
面接及び検査等を行い、記録を作成し、報告する。						
【課題に対するフィードバックの方法】						
実習担当教員がカンファレンス及び個別指導においてコメントを行う。						
【成績評価方法・基準】						
実習生本人の自己評価を踏まえて、実習担当教員が総合的に評価を行う。 実習の達成度の評価基準については、オリエンテーション時に説明を行う。						
【履修上の注意】						
時間数が決められた実習であるので、1回でも欠席すると単位の認定はできなくなる(特別な場合を除き欠席を認めない)。						

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理実習Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	2	日本語
担当教員名	小川邦治・浦田英範・調恵子・渡邊真奈美・福永聡子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
1年次の臨床心理基礎実習を踏まえて、質の高い実践(面接、査定)能力の養成と臨床心理専門職の専門性や役割(協働)など、広い視野から臨床心理活動への理解を深めることを目的とする。				
【講義概要】				
学内実習(臨床心理センターにおいて実際の相談ケースを受け持ち、心理査定および心理相談・援助を担当)および学外実習(医療、教育、福祉の3領域において、各90時間程度の臨床心理活動を体験)の内容について、ケースカンファレンス等で報告を通して振り返り(集団スーパービジョン)を行い、臨床体験を深めていく。なお、遠隔授業を行う場合は、同時双方向テレビ会議システムを組み合わせた型とする。それらに加え、学外のスーパービジョンを15回以上は受け、臨床体験をより深める。				
【講義計画内容】				
NO	講義計画	NO	講義計画	
1	オリエンテーション	15	オリエンテーション	
2	①内部実習グループスーパービジョン	16	①合同カンファレンス	
3	②内部実習グループスーパービジョン	17	①内部実習グループスーパービジョン	
4	③内部実習グループスーパービジョン	18	②合同カンファレンス	
5	①外部実習(医療)グループスーパービジョン	19	②内実習グループスーパービジョン	
6	②外部実習(医療)グループスーパービジョン	20	③合同カンファレンス	
7	①外部実習(教育)グループスーパービジョン	21	①外部実習グループスーパービジョン	
8	②外部実習(教育)グループスーパービジョン	22	④合同カンファレンス	
9	①外部実習(福祉)グループスーパービジョン	23	①外部実習グループスーパービジョン	
10	②外部実習(教育)グループスーパービジョン	24	⑤合同カンファレンス	
11	外部実習報告(医療)	25	外部実習報告(医療)	
12	外部実習報告(教育)	26	外部実習報告(教育)	
13	外部実習報告(福祉)	27	外部実習報告(福祉)	
14	ふり返りとまとめ	28	ふり返りとまとめ	
【テキスト】				
なし。適宜資料を配布する。				
【参考書・参考資料等】				
津川律子・橋玲子 編著「臨床心理士を目指す大学院生のための精神科実習ガイド」誠信書房 友久久雄・吉川悟 編著「臨床心理実習マニュアル」遠見書房 津川律子・篠竹利和 著「シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査」誠信書房				
【事前・事後学習、時間等】				
カンファレンスにおいて積極的に事例提出を行い、討議にも積極的に参加すること。				
【課題の種類・内容】				
グループスーパービジョン、合同カンファおよび外部実習の報告書の資料を作成しておくこと。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
カンファレンスにおいて関係する書類や日誌等のプレゼンを行う。そのときにフィードバックも行う。				
【成績評価方法・基準】				
内部実習(実践および報告)の評価[担当教員による]、学外実習(実践および報告)の評価[実習先担当者および担当教員による]を踏まえ、この授業での資料作り、報告などを総合的に評価する。				
【履修上の注意】				
各臨床現場のルール及び指導に従うこと。体調管理に気をつけ、遅刻や早退などで臨床現場に迷惑をかけることがないように重々注意すること。臨床現場で何か起きたときはすぐに現場の指導者に報告・連絡・相談を行い、同時に臨床心理学専攻の専任教員にすみやかに報告して指導を受けること。また学外のスーパービジョンもきちんと受けること。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理実習Ⅲ(心理実践実習)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		集中	2	日本語
担当教員名	井上 久美子 浦田 英範 小川 邦治 進藤 啓子 花田利郎			

【講義の到達目標及びテーマ】

本授業は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び3を修得するための科目である。社会福祉分野の現場において、心理援助職として、心理学に関する専門的知識および技術をもって、「心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること」「心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと」「心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導、その他の援助を行うこと」を実践的に理解すること。

【講義概要】

社会福祉分野の学外実習を行う。実習担当教員の指導の下で作成し、実習指導者と協議した実習計画書に基づいて、約90時間の実習を行う。実習は集中して12日間程度(1日約8時間、週5-6日)行う場合、連続して12週程度(1日約8時間、週1日)行う場合、連続して24週程度(1日約4時間、週1日)行う場合がある。1日の実習は、実習指導者との打ち合わせ、担当ケースに関する実習、振り返りからなり、実習日誌の記録を毎日行い、実習指導者に提出し、指導を受ける。実習担当教員による巡回が、実習中に週1回以上(集中で実施する場合)または実習5回につき1回以上(連続で実施する場合)行われ、実習担当者の実習担当教員との連携による指導が行われる。実習期間中に、帰校日を設け、必要に応じて個別指導が行われる。実習終了後には終了報告を行い、必要に応じて、実習担当教員による個別指導が行われる。

【講義計画内容】

No.	講義計画		
1	実習のオリエンテーションと事前指導	① 社会福祉分野の施設の特徴について発表し、ディスカッションに参加する。 ② 自分が実習を行う施設について発表し、ディスカッションに参加する。 ③ ①②を踏まえて、社会福祉分野ならではの専門性について考えながら、自分の実習目標を立て、具体的な実習計画を作成する。	臨床心理実習マニュアルを通読し、理解しておくこと。社会福祉分野の施設の特徴および実習先の特徴を調べておくこと。
2			
3			
4	実習とその個別指導(社会福祉現場で実習)	実習指導者の指導の下、社会福祉施設内の様々な活動・行事に参加しながら、以下の内容を修得する。 1. 心理に関する支援を要する者等との基本的なコミュニケーションの方法 2. 心理に関する支援を要する者等に対する心理検査の知識および技術 3. 心理に関する支援を要する者等に対する心理面接の知識および技術 4. 心理に関する支援を要する者等に対する地域支援等の知識および技術 5. 対象者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成方法 6. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの実際 7. 多職種連携及び地域連携の実際 8. 心理援助職としての職業倫理及び法的義務	日々の実習目標、実習内容をふり振り返り、実習日誌にまとめるとともに、次回の実習目標を確認する。実習日誌を実習指導者に提出し、実習の中での疑問点や実習担当者からの指摘にはすぐに対応する。実習担当教員による巡回が、実習中に週1回以上(集中で実施する場合)または実習5回につき1回以上(連続で実施する場合)行われ、実習担当者との連携による指導が行われる。必要に応じて、帰校日または次回の実習日までに個別指導が行われる。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13	実習のふり振り返りと事後指導	実習で体験したことを踏まえ、社会福祉分野における心理援助職の専門性、福祉臨床や実習施設の特徴等について報告し、ディスカッションに参加する。ディスカッションを踏まえて、最終的な実習報告書を作成する。	実習目標、実習内容についてふり振り返り、実習のまとめの資料を作成しておくこと。
14			

【テキスト】

参考資料・文献を随時提示する。

【参考書・参考資料等】

友久久雄・吉川悟(2013)「臨床心理実習マニュアル」遠見書房

【事前・事後学習、時間等】

配布する「臨床心理実習 学外実習の手引き」を通読し、理解しておくこと。

【課題の種類・内容】

1日の実習活動をふり振り返り、実習日誌を書き、実習指導者に提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習指導者、実習担当教員がコメントを行う。

【成績評価方法・基準】

実習施設の実習指導者の評定、実習生本人の自己評価を踏まえて、実習担当教員が総合的に評価を行う。実習の達成度の評価基準については、オリエンテーション時に説明を行う。

【履修上の注意】

時間数が決められた実習であるので、1回でも欠席すると単位の認定はできなくなる(特別な場合を除き欠席を認めない)。

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理実習Ⅳ(心理実践実習)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		集中	2	日本語
担当教員名	井上 久美子 浦田 英範 小川 邦治 進藤 啓子 花田利郎			

【講義の到達目標及びテーマ】

本授業は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び3を修得するための科目である。保健医療分野の現場において、心理援助職として、心理学に関する専門的知識および技術をもって、「心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること」「心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと」「心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導、その他の援助を行うこと」を実践的に理解すること。

【講義概要】

保健医療分野の学外実習を行う。実習担当教員の指導の下で作成し、実習指導者と協議した実習計画書に基づいて、約90時間の実習を行う。実習は集中して12日間程度(1日約8時間、週5-6日)行う場合、連続して12週程度(1日約8時間、週1日)行う場合、連続して24週程度(1日約4時間、週1日)行う場合がある。1日の実習は、実習指導者との打ち合わせ、担当ケースに関する実習、振り返りからなり、実習日誌の記録を毎日行い、実習指導者に提出し、指導を受ける。実習担当教員による巡回が、実習中に週1回以上(集中で実施する場合)または実習5回につき1回以上(連続で実施する場合)行われ、実習担当者と実習担当教員との連携による指導が行われる。実習期間中に、帰校日を設け、必要に応じて個別指導が行われる。実習終了後には終了報告を行い、必要に応じて実習担当教員による個別指導が行われる。

【講義計画内容】

No.	講義計画		
1	実習のオリエンテーションと事前指導	① 保健医療分野の施設の特徴について発表し、ディスカッションに参加する。 ② 自分が実習を行う施設について発表し、ディスカッションに参加する。 ③ ①②を踏まえて、保健医療分野ならではの専門性について考えながら、自分の実習目標を立て、具体的な実習計画を作成する。	臨床心理実習マニュアルを通読し、理解しておくこと。保健医療分野の施設の特徴および実習先の特徴を調べておくこと。
2			
3			
4	実習とその個別指導(医療現場で実習)	実習指導者の指導の下、病院施設内の様々な活動・行事に参加しながら、以下の内容を修得する。 1. 心理に関する支援を要する者等との基本的なコミュニケーションの方法 2. 心理に関する支援を要する者等に対する心理検査の知識および技術 3. 心理に関する支援を要する者等に対する心理面接の知識および技術 4. 心理に関する支援を要する者等に対する地域支援等の知識および技術 5. 対象者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成方法 6. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの実践 7. 多職種連携及び地域連携の実践 8. 心理援助職としての職業倫理及び法的義務	日々の実習目標、実習内容をふり取り、実習日誌にまとめるとともに、次回の実習目標を確認する。実習日誌を実習指導者に提出し、実習の中での疑問点や実習担当者からの指摘にはすぐに対応する。実習担当教員による巡回が、実習中に週1回以上(集中で実施する場合)または実習5回につき1回以上(連続で実施する場合)行われ、実習担当者との連携による指導が行われる。必要に応じて、帰校日または次回の実習日までに個別指導が行われる。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13	実習のふり取りと事後指導	実習で体験したことを踏まえ、保健医療分野における心理援助職の専門性、病院臨床や実習施設の特徴等について報告し、ディスカッションに参加する。ディスカッションを踏まえて、最終的な実習報告書を作成する。	実習目標、実習内容についてふり取り、実習のまとめの資料を作成しておくこと。
14			

【テキスト】

参考資料・文献を随時提示する。

【参考書・参考資料等】

津川律子・橋玲子 編著(2009)「臨床心理士を目指す大学院生のための精神科実習ガイド」誠信書房
 友久久雄・吉川悟(2013)「臨床心理実習マニュアル」遠見書房

【事前・事後学習、時間等】

配布する「臨床心理実習 学外実習の手引き」を通読し、理解しておくこと。事後指導を受けた後それをまとめる。各60分程度とする。

【課題の種類・内容】

1日の実習活動をふり取り、実習日誌を書き、実習指導者に提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習指導者、実習担当教員がコメントを行う。

【成績評価方法・基準】

実習施設の実習指導者の評定、実習生本人の自己評価を踏まえて、実習担当教員が総合的に評価を行う。実習の達成度の評価基準については、オリエンテーション時に説明を行う。

【履修上の注意】

時間数が決められた実習であるので、1回でも欠席すると単位の認定はできなくなる(特別な場合を除き欠席を認めない)。

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理実習 V (心理実践実習)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		集中	2	日本語
担当教員名	井上 久美子 浦田 英範 小川 邦治 進藤 啓子 花田利郎			

【講義の到達目標及びテーマ】

本授業は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び3を修得するための科目である。教育分野の現場において、心理援助職として、心理学に関する専門的知識および技術をもって、「心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること」「心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと」「心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導、その他の援助を行うこと」を実践的に理解すること。

【講義概要】

教育分野の学外実習を行う。実習担当教員の指導の下で作成し、実習指導者と協議した実習計画書に基づいて、約90時間の実習を行う。実習は集中して12日間程度(1日約8時間、週5-6日)行う場合、連続して12週程度(1日約8時間、週1日)行う場合、連続して24週程度(1日約4時間、週1日)行う場合がある。1日の実習は、実習指導者との打ち合わせ、担当ケースに関する実習、振り返りからなり、実習日誌の記録を毎日行い、実習指導者に提出し、指導を受ける。実習担当教員による巡回が、実習中に週1回以上(集中で実施する場合)または実習5回につき1回以上(連続で実施する場合)行われ、実習担当者として実習担当教員との連携による指導が行われる。実習期間中に、帰校日を設け、必要に応じて、実習担当教員による個別指導が行われる。実習終了後には報告を行い、必要に応じて、実習担当教員による個別指導が行われる。

【講義計画内容】

No.	講義計画		
1	実習のオリエンテーションと事前指導	① 教育分野の施設の特徴について発表し、ディスカッションに参加する。 ② 自分が実習を行う施設について発表し、ディスカッションに参加する。 ③ ①②を踏まえて、教育分野ならではの専門性について考えながら、自分の実習目標を立て、具体的な実習計画を作成する。	臨床心理実習マニュアルを通読し、理解しておくこと。教育分野の施設の特徴および実習先の特徴を調べておくこと。
2			
3			
4	実習とその個別指導(教育現場で実習)	実習指導者の指導の下、教育施設内の様々な活動・行事に参加しながら、以下の内容を修得する。 1. 心理に関する支援を要する者等との基本的なコミュニケーションの方法 2. 心理に関する支援を要する者等に対する心理検査の知識および技術 3. 心理に関する支援を要する者等に対する心理面接の知識および技術 4. 心理に関する支援を要する者等に対する地域支援等の知識および技術 5. 対象者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成方法 6. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの実際 7. 多職種連携及び地域連携の実際 8. 心理援助職としての職業倫理及び法的義務	日々の実習目標、実習内容をふり返し、実習日誌にまとめるとともに、次回の実習目標を確認する。実習日誌を実習指導者に提出し、実習の中での疑問点や実習担当者からの指摘にはすぐに対応する。実習担当教員による巡回が、実習中に週1回以上(集中で実施する場合)または実習5回につき1回以上(連続で実施する場合)行われ、実習担当者との連携による指導が行われる。必要に応じて、帰校日または次回の実習日までに個別指導が行われる。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13	実習のふり返りと事後指導	実習で体験したことを踏まえて、教育分野における心理援助職の専門性、教育臨床や実習施設の特徴等について報告し、ディスカッションに参加する。 ディスカッションを踏まえて、最終的な実習報告書を作成する。	実習目標、実習内容についてふり返し、実習のまとめの資料を作成しておくこと。
14			

【テキスト】

参考資料・文献を随時提示する。

【参考書・参考資料等】

友久久雄・吉川悟(2013)「臨床心理実習マニュアル」遠見書房

【事前・事後学習、時間等】

配布する「臨床心理実習 学外実習の手引き」を通読し、理解しておくこと。事後指導を受けた後それをまとめる。各60分程度とする。

【課題の種類・内容】

1日の実習活動をふり返し、実習日誌を書き、実習指導者に提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習指導者、実習担当教員がコメントを行う。

【成績評価方法・基準】

実習施設の実習指導者の評定、実習生本人の自己評価を踏まえて、実習担当教員が総合的に評価を行う。実習の達成度の評価基準については、オリエンテーション時に説明を行う。

【履修上の注意】

時間数が決められた実習であるので、1回でも欠席すると単位の認定はできなくなる(特別な場合を除き欠席を認めない)。

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	心理統計法特論	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	安藤 花恵			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容や研究目的に合わせて、適切な統計分析手法を選択することができる ・統計ソフトを用いて実際にデータを分析し、その結果を読み取ることができる ・読み取った結果を適切に解釈し、心理学論文内で正しく記述することができる 				
【講義概要】				
<p>心理研究の中で使われる統計手法について、その考え方や理論を講義する。その後、JMP・HAD等の統計ソフトを使って実際にデータ分析をおこない、結果の読み取り方・解釈の仕方についても演習をおこなう。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション：心理臨床研究における統計			
2	記述統計と要因計画			
3	t検定①：t検定の考え方			
4	t検定②：実習			
5	分散分析①：分散分析の考え方・一要因分散分析			
6	分散分析②：主効果と交互作用・二要因分散分析			
7	カイ二乗検定			
8	相関分析①：相関分析の考え方・実習			
9	相関分析②：相関の解釈・偏相関			
10	単回帰分析			
11	重回帰分析			
12	因子分析			
13	応用的な分析①：クラスター分析			
14	応用的な分析②：パス解析			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
必要に応じて、授業内で適宜紹介する				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、学んだ内容を復習するための課題を出すので、次回の授業までに必ず取り組んでくること(2時間程度) ・学んだ内容を定着させるため、必ず復習をおこなうこと(1時間程度) 				
【課題の種類・内容】				
授業内で実習をおこなうとともに、授業後に各自事後学習をおこなうための課題を毎回課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業内の実習については、その都度教員がフィードバックをおこなう。事後学習課題については、次の授業の開始時に模範解答を示し、解説する。				
【成績評価方法・基準】				
授業内での実習と事後学習課題への取り組みとその出来で総合的に判断する。				
【履修上の注意】				
なし				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学研究法特論	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	税田 慶昭			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本講義のテーマは臨床心理学研究であり、その到達目標は、研究論文の構成軸を知り、各種研究法の特徴を踏まえたうえで、各自の関心に基づくリサーチクエストに適した研究法が選択できることとする。				
【講義概要】				
臨床心理学研究法として、事例研究法、量的研究ならびに質的研究があげられる。本講義では、研究論文の構成軸を知り、各種研究法に基づく研究論文を分析し、臨床心理学研究法の素養を涵養する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	科学的研究の要件			
2	研究法の種類			
3	研究論文の構成軸(1):リサーチクエストの立て方について			
4	研究論文の構成軸(2):問題の背景, 研究の目的・意義, そして仮説			
5	研究論文の構成軸(3):先行研究レビュー(引用文献), 方法及び結果			
6	研究論文の構成軸(4):再現性, 考察及び結論			
7	事例研究法(1)			
8	事例研究法(2)			
9	量的研究法(1)			
10	量的研究法(2)			
11	質的研究法(1)			
12	質的研究法(2)			
13	研究における倫理			
14	まとめ			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
適宜紹介する				
【事前・事後学習、時間等】				
受講生自身が関心を持つ領域(臨床心理学分野)の学会誌論文(日本語)を検索し、研究法が異なる2本を入手、PDF化しておくこと。講義初日にPDFにて提出をお願いします。				
【課題の種類・内容】				
受講中に各種研究法に基づく論文を各自で分析し、研究論文の構成軸の基本骨格を学修する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
受講中に自分なりの理解をプレゼンする機会を作り、受講生同士での共有ならびに相互研鑽を行い、適宜研究者としての視点についてコメントする。				
【成績評価方法・基準】				
最終レポート(50%)とプレゼン評価(50%)をもとに最終評価とします。				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	井上久美子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>人間の生涯発達を認知・情動・社会性という視点から深く学ぶ中で、以下の能力を修得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理アセスメントにおいて、特に発達心理学的知見を生かし、適切に見立てられるようになる力を身に着ける。 ・ライフサイクルから見た発達障害児への理解と援助のあり方について考えられるようになる。 ・論文の精読を通して、臨床心理学の専門的知識の習得のみならず、研究法についても考察することができる。 				
【講義概要】				
<p>前半は発表担当者が、自分の担当箇所について書籍・論文を引用しながら話題提供を行い、受講生同士で討論を重ねながら、発達のそれぞれのライフステージについて理解を深める。後半は、事例研究を取り上げ、発達の視点をアセスメントにどのように生かすことができるか討論やロールプレイを取り入れながら体験的に知識を身につける。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション(発達心理学の序論・発表者決め)			
2	乳児期における知覚・運動の発達			
3	乳児期における社会性の発達			
4	幼児期におけるシンボルの発達(言語の発達)			
5	幼児期における社会性の発達			
6	児童期における認知・社会性の発達			
7	ライフサイクルから見た発達障害児への理解			
8	青年期前期における思考の発達			
9	青年期後期における性役割			
10	成人期における発達			
11	老年期における発達			
12	発達臨床に関する事例を理解する視点			
13	発達臨床に関する事例の検討			
14	まとめ			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
<p>ジョージ・バターワース／マーガレット・ハリス著 村井潤一監訳 「発達心理学の基本を学ぶ」(ミネルヴァ書房、1997年) 下山晴彦・丹野義彦編 「講座 臨床心理学5 発達臨床心理学」(東京大学出版会、2001年) 渡辺弥生・榎本順子編 「発達と臨床の心理学」(ナカニシヤ出版、2012年)</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備にあたって自分が担当するトピックの関連論文及び書籍を十分に調べ、担当内容をよく理解し、分かりやすい発表になるよう準備を行う(3時間以上)。 ・他者の発表内容について、自ら関連する論文及び書籍を十分に調べ、内容の理解を深める(2時間程度)。 				
【課題の種類・内容】				
発表資料および発表後の補足資料の作成				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業における討論を通して課題に対するフィードバックを行う。				
【成績評価方法・基準】				
授業中の発表内容、及びプレゼンテーションの仕方による評価(60%)、授業中の討論への参加態度(20%)、授業中に課すレポートの作成内容(20%)により、総合的に評価する。				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	認知心理学特論	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	中村 奈良江			
【講義の到達目標及びテーマ】				
心理学に関する深い学識を修得するために、人間の行動の背景にある思考プロセスなどを解明する方法とそれらの結果から導き出されたモデルを理解し、人間の行動の意味を理解できる。				
【講義概要】				
「心理学研究」「認知心理学研究」「認知科学」の中から各回のテーマに沿った論文を選びだし、担当者が内容を説明する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	認知心理学とは			
2	注意に関する論文(1)反応抑制			
3	注意に関する論文(2)脳の障害との関連			
4	顕在記憶と潜在記憶に関する論文(1)プライミングとの関連			
5	顕在記憶と潜在記憶に関する論文(2)脳の障害との関連			
6	知識の構造に関する論文(1)アクティベーション理論			
7	知識の構造に関する論文(2)脳の障害との関連			
8	記憶に対する感情の影響に関する論文(1)IATテスト			
9	記憶に対する感情の影響に関する論文(2)脳の障害との関連			
10	認知発達に関する論文(1)ピアジェの理論			
11	認知発達に関する論文(2)表情理解			
12	老年期の記憶に関する論文(1)エピソード記憶との関連			
13	老年期の記憶に関する論文(2)アルツハイマーとの関連			
14	感性に関する論文			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
「認知心理学」有斐閣、「認知心理学講座1～4」東京大学出版会、「認知科学1～9」岩波書店、				
【事前・事後学習、時間等】				
各回に該当する論文を読んでおき、授業の後に内容について見直しておく。				
【課題の種類・内容】				
授業は担当者を決め発表をするので、発表者は論文を読んでレジュメを作成しなければならない。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表について質問や議論を通じてフィードバックを行う。				
【成績評価方法・基準】				
授業中の発表への参加、議論への参加を参考にし、評価を行う。				
【履修上の注意】				
なし				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科臨床心理学専攻

講義科目名	社会心理学特論	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	柳澤 さおり			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>(1)人間の基本的特性の知識を習得し、自分や他者の社会的行動の原理を理解できる。 (2)状況に合わせたセルフ・コントロールの必要性を理解し、自分の行動に生かすことができる。 (3)人間の基本的特性と状況とを考慮して、他者との関りを生産的なものにするための対応を考えることができる。</p>				
【講義概要】				
<p>社会心理学のなかでも、特に社会で活動する際に役立つ人の行動特徴を説明する理論を取り上げる。ケース分析やワークにより、受講者が体験しながらそれらの理論を理解できるように授業を展開する。自分の考え、感じたことなどを発表してもらうことにより、一般理論だけでなく、その理論では想定できない個人差も理解してもらう。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション: 授業の目的、進め方の説明 フィードバック(1): フィードバック			
2	フィードバック(2): フィードバックに関わる理論			
3	フレーミング(1): ケースを基にしたフレーミング効果の体験			
4	フレーミング(2): フレーミングに関わる理論			
5	主張・依頼・提案・要望の受け入れ(1): ケースを基にした主張・依頼・提案・要望の受け入れの体験			
6	主張・依頼・提案・要望の受け入れ(2): 主張・依頼・提案・要望の受け入れに関わる理論			
7	不公平感・不満(1): ケースを基にした不公平感・不満の体験			
8	不公平感・不満(2): 不公平感・不満に関わる理論			
9	モチベーション(1): ケースを基にしたモチベーションの体験			
10	モチベーション(2):モチベーションに関わる理論			
11	モチベーション(3):モチベーションに関わる理論			
12	セルフ・コントロール(1): ケースを基にしたセルフ・コントロールの体験			
13	セルフ・コントロール(2): セルフ・コントロールに関わる理論			
14	ストレスマネジメント: ケースを基にしたストレスマネジメントの体験			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
なし				
【事前・事後学習、時間等】				
授業内容に関わる事前課題の作成(5割)、事後の振り返り(5割)。				
【課題の種類・内容】				
主に自己の体験に関わる報告や振り返りについてまとめてもらう。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中に口頭で行う。				
【成績評価方法・基準】				
各回の授業の参加度と事前・事後課題(60%)、レポート(40%)に基づいて評価を行う。レポートは、授業中に学習した内容の応用力(妥当性、納得性)を評価する。				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	徳田 智代			
【講義の到達目標及びテーマ】				
1. 家族理解や家族援助に関わる理論について理解する。2. 家族システムのアセスメント方法について身につける。3. 家族療法の様々な技法について理解し、活用できるようになる。4. コミュニティ・アプローチの理論について理解する。5. コミュニティ・アプローチの方法について理解し、活用できるようになる。6. グループ・アプローチの方法について理解し、活用できるようになる。7. 多職種連携・地域連携について理解する。この講義を通して、人間及び社会についての基本的理解を深め、臨床心理学の高度な知識の習得を目指す。また、人間と社会に対する総合的・多角的視野をもち、臨床心理学の専門的知識及び技法について深く理解し、実践できる力を養成する。さらに、保健医療、教育、福祉等の現場で、他の職種と十分に協力・連携することができる力を養成する。臨床心理士・公認心理師として、質の高い心理的支援を実践できる力を養成する。(知識・技能、思考力、態度・志向性、実践力)				
【講義概要】				
本講義では、1. 現代家族をめぐる様々な問題を検討し、援助法について考える。その際、家族理解や家族援助に関わる基礎理論について学び、家族への関わり方と援助法について、ロールプレイや事例を通して身につける。また、2. コミュニティ・アプローチ及びグループ・アプローチの基礎理論や方法について学び、ロールプレイや事例を通して、実践力を養う。さらに、3. これらの理論や技法をどのように自身の心理臨床実践に応用していくかについて考え、多職種連携・地域連携についても考える。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	現代の家族問題と家族理解の視点：家族ライフサイクル、ジェノグラム、FIT(家族イメージ法)			
2	家族療法の理論(1)システム論、円環的認識論、相互作用とプロセス、関係と文脈			
3	家族療法の理論(2)多世代伝達モデル、構造的モデル、コミュニケーションモデル			
4	家族療法の技法(1)第一世代を中心に			
5	家族療法の技法(2)第二世代、第三世代を中心に			
6	模擬家族面接(1)不登校、引きこもり等			
7	模擬家族面接(2)摂食障害、うつ病等			
8	模擬家族面接(3)DV、虐待等			
9	コミュニティ・アプローチの理論(1)危機理論、ストレス理論			
10	コミュニティ・アプローチの理論(2)ソーシャル・サポート理論			
11	コミュニティ・アプローチの方法(1)コンサルテーション、システム構築			
12	コミュニティ・アプローチの方法(2)危機介入、心理教育			
13	グループ・アプローチの理論と方法			
14	多職種連携・地域連携			
【テキスト】				
なし(講義の中で資料を配付する。)				
【参考書・参考資料等】				
徳田智代他『公認心理師のための協働の技術—教育と産業・労働分野における工夫』(金子書房 2021年)／日本家族研究・家族療法学会編『家族療法テキストブック』(金剛出版 2013年)／日本家族心理学会編『家族心理学ハンドブック』(金子書房 2019年)／日本家族研究・家族療法学会編『家族療法研究』(金剛出版)／日本家族心理学会編『家族心理学研究』／野島一彦他『公認心理師実践ガイダンス3 家族関係・集団・地域社会』(木立の文庫 2019年)				
【事前・事後学習、時間等】				
学部で学んだ「家族心理学」「社会心理学」「コミュニティ心理学」等について、必ず復習を行い、基礎的な知識を習得したうえで、本講義に臨むこと。(時間数は習熟度によって異なるが、3時間程度)／家族療法、システムズアプローチ、コミュニティ・アプローチ、グループ・アプローチ等のケースレポートを読んでおくこと。(3時間程度)／各回のキーワードについて調べておくこと。(1時間程度)／事例を踏まえたディスカッションやロールプレイを行うため、それに関連する理論や技法について、復習しておくこと。(2時間程度)				
【課題の種類・内容】				
毎回、その日に学んだことをまとめ、小レポートとして提出を求める。学んだことを整理し、これまでの知識と関連づけたりしながら、理解を深めさせる。また、自身の心理臨床実践への応用や多職種連携・地域連携についても考えさせる。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
講義の最初に、前日のレポートを踏まえて、理解不十分な点や質問に対しては説明を行う。また、理解を深めることができるよう、各自の理解度に応じて、補足資料を配付したり、補足説明を行ったりする。全体で共有し、全員が理解を深められるようにする。その他、必要に応じて、個別対応も行う。				
【成績評価方法・基準】				
成績評価方法：グループディスカッション、ロールプレイ等への積極的な参加 50% レポート 50%。成績評価基準：到達目標に記載された、家族理解や家族援助に関わる理論、家族援助のためのアセスメント、家族療法の技法、コミュニティ・アプローチの理論と方法、グループ・アプローチの理論と方法、多職種連携・地域連携について、知識と技能の習得状況を評価する。				
【履修上の注意】				
公認心理師資格のための必修科目である。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理関連行政論	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	高橋幸市			
【講義の到達目標及びテーマ】				
1.心の支援に関する全体像を、法律や制度の点から概観し、国民からの期待や社会的使命を自覚できる。 2.様々な分野における法律や制度、そこで対象となる要支援者の特性を把握し、具体的な役割を理解できる。 3.法律や制度の知識を活用し、他職種や専門家、行政、国民と有効な連携や協働をすることができる。 4.現状の法律や制度を熟知した上で、要支援者の心情の理解や自己決定支援が心理学的支援の中核であることを深く認識できる。				
【講義概要】				
本講では、主として市民生活へ貢献する心理臨床活動という視点から、多岐にわたる心理臨床活動の全貌とその活動を規定する枠組みについて理解を進める。また、分野ごとの心理臨床活動の特徴についても取り上げ、そこで求められる専門的職能や倫理性について枠組みとの関連で検討する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーションと役割分担			
2	コミュニティ・アプローチとしての心理臨床活動と行政施策			
3	保健医療分野における心理臨床活動とその枠組みについて：報告と議論			
4	精神保健医療分野における心理臨床活動とその枠組みについて：報告と議論			
5	児童福祉分野(虐待防止、社会的養護)における心理臨床活動とその枠組みについて：報告と議論			
6	児童福祉分野(子育て支援)および母子保健分野における心理臨床活動とその枠組みについて：報告と議論			
7	障害福祉分野における心理臨床活動とその枠組みについて：報告と議論			
8	高齢者福祉分野における心理臨床活動とその枠組み：報告と議論			
9	女性相談の心理臨床活動とその枠組み：報告と議論			
10	教育分野の心理臨床活動とその枠組み：報告と議論			
11	司法・矯正分野(少年事件)における心理臨床活動とその枠組み：報告と議論			
12	司法・矯正分野(家事事件)における心理臨床活動とその枠組み：報告と議論			
13	産業・労働分野における心理臨床活動とその枠組み：報告と議論			
14	臨床心理士の社会的責務と倫理			
【テキスト】				
各省庁のHPに公開されている政策情報、公認心理師の基礎と実践第25巻関係行政論(遠見書房)				
【参考書・参考資料等】				
学生が事前に調べたことを発表し、討論によって進める。 そのため担当する回については、臨床心理士の活動と法的規定、行政施策等について事前に調査しまとめること。				
【事前・事後学習、時間等】				
担当する回の報告レポート(パワーポイント等)、最終回に出題するレポート				
【課題の種類・内容】				
報告レポートに関してはその回ごとに、最終回レポートは成績評価に含めて示す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
報告レポートに関してはその回ごとに、最終回レポートは成績評価に含めて示す。				
【成績評価方法・基準】				
担当する回のレポート：50%、討論への参加状況：40%、最終回に指示するまとめとなるレポート10%				
【履修上の注意】				
第1回目の授業に必ず出席のこと。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	精神医学特論 (精神医療分野に関する理論と支援の展開)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	鈴木智美			
【講義の到達目標及びテーマ】				
ひとのこころの発達について学ぶ。精神疾患の理解、その心理的対応・支援に関する基礎知識を習得する。				
【講義概要】				
精神疾患の症状・症状記載をするときの用語の使い方を学ぶ。患者を支え、多職種との連携ができるようになるために必要な事柄を理解する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	精神医学の歴史			
2	こころの発達・ライフサイクル			
3	正常と異常			
4	古典的診断と操作的診断			
5	統合失調症			
6	気分障害			
7	神経症・心身症			
8	心的外傷			
9	パーソナリティ障害			
10	児童・思春期の精神疾患			
11	生理的な精神障害・症状性精神障害・認知症			
12	社会が生み出す精神病理			
13	治療法			
14	精神医療の現在(医療・福祉制度を含む)			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
「公認心理師の基礎と実践 22巻 精神疾患とその治療」神庭重信・加藤隆弘編 遠見書房				
【事前・事後学習、時間等】				
復習をしておくこと				
【課題の種類・内容】				
講義内容を自分なりにまとめておくこと				
【課題に対するフィードバックの方法】				
各講義の前半で、前回の講義についての不明な点などを明確にしてフィードバックする				
【成績評価方法・基準】				
授業中の質疑内容/レポート				
【履修上の注意】				
実習で活かせるよう、積極的に授業に参加すること				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	老年心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	久 桃子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>老年期の人たちの身体、認知、心理、社会的役割、精神疾患等について生涯発達の視点から学ぶ。さらに老年期の心理的問題について学び、支援を要する人たちへの心理学的支援の理論と方法を習得する。とくに本科目は、今後の高齢化社会において「臨床心理士」や「公認心理師」資格を取得し、心理臨床および心理学的援助職を志向する場合の専門的援助技術とも深くかかわっている。</p>				
【講義概要】				
<p>老年期の人たちの身体、認知、心理、社会的特徴等を講じ、基本的な知識を身に着ける。また、心理支援においては、回想法や心理劇等のワークを通して、将来の実際的な支援に結び付けられるような知識や支援方法について実践的に学んでいく。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	生涯発達からみた老年期の特徴			
2	老年期の認知・記憶の特徴			
3	老年期の社会関係と心理			
4	老年期の身体と動作の特徴			
5	老年期の精神疾患			
6	高齢者への回想法による援助の理論と実際			
7	高齢者への回想法による援助の技法			
8	心理劇による心理的支援の理論と実際			
9	心理劇による心理的支援の実践方法			
10	動作法による心理的支援の理論と実際			
11	動作法による心理的支援の実践方法			
12	高齢者への健康支援としての心理的支援			
13	認知症高齢者とその家族の心理的支援			
14	終末期の心理的支援			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
黒川由紀子「老いの臨床心理—高齢者のこころのケアのために」日本評論社 松田修「最新老年心理学」株式会社ワールドプランニング				
【事前・事後学習、時間等】				
指定論文等授業内で指示があったものを事前に読んで内容を理解しておく(1時間) 授業後、授業の内容について理解を深めレポートを作成する(1時間)				
【課題の種類・内容】				
ワーク等の実践については体験レポートを提出してもらいます。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートに対しては授業内でコメントを行います				
【成績評価方法・基準】				
授業内での討論等への参加度40%、レポート60%				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	障害児者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	花田 利郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本講義は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「展開科目」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び3の修得に関連する科目である。福祉分野(障害領域)に関わる公認心理師や臨床心理士の実践について理解を深める。様々な発達段階で生じる「障害」と呼ばれるもの、それらの障害のある人とその家族を理解し、その支援に役立つ知識や技術、実践について学ぶ。到達目標は、①「障害」についての総合的な捉え方について説明できること、②各障害の特性及び各障害のある子ども(者)やその家族の具体的な困難さについて説明できること、③各障害のある人やその家族の支援の在り方(方法、態度)について説明できることである。</p>				
【講義概要】				
<p>様々な障害のある子ども(者)と家族の心理的な問題とその理解、支援について学ぶ。発達上の基本的な問題を定型発達の子どもの比較において検討する。発達障害(自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠如多動症など)のある子どもの支援についても検討を行う。障害のある人に関する研究論文のプレゼンテーション、ビデオ資料の視聴を題材にしながら進める。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション 障害とは何か?			
2	障害の捉え方			
3	身体障害の障害特性の理解(聴覚障害、視覚障害、肢体不自由・運動障害)			
4	知的障害の障害特性の理解			
5	発達障害の障害特性の理解(学習障害)			
6	発達障害の障害特性の理解(注意欠如多動症)			
7	発達障害の障害特性の理解(自閉スペクトラム症)			
8	身体障害のある子ども(者)に対する支援(動作法(理論)を中心に)			
9	身体障害のある子ども(者)に対する支援(動作法(実技)を中心に)			
10	知的障害のある子ども(者)に対する支援			
11	発達障害のある子ども(者)に対する支援(学習障害)			
12	発達障害のある子ども(者)に対する支援(注意欠如多動症)			
13	発達障害のある子ども(者)に対する支援(自閉スペクトラム症① TEACCHプログラム)			
14	発達障害のある子ども(者)に対する支援(自閉スペクトラム症② 応用行動分析)			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
<p>心理臨床学研究、特殊教育学研究、発達障害研究、LD研究、自閉症スペクトラム研究、等の学会誌 柘植雅義他編著『公認心理士の基礎と実践13 障害者・障害児心理学』遠見書房, 2020 柿澤敏文編著『シリーズ心理学と仕事15 障害者心理学』北大路書房, 2017 井澤信三・小島道生編著『障害児心理入門 第2版』ミネルヴァ書房, 2013 昇地勝人他編『障害特性の理解と発達援助 第2版』ナカニシヤ出版, 2006 小野次朗・上野一彦・藤田継道編著『よくわかる発達障害 第2版』ミネルヴァ書房, 2010</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>発表担当者か否かによりその配分は異なるが、毎回4時間程度の事前・事後学習時間が必要である。 発表の担当者となった場合には、責任をもって発表資料及びプレゼンテーションの準備をして臨むこと。 自分の発表日の1週間前に発表資料を他の参加者および担当教員に配布しておくこと。 発表の担当者でない場合は、発表テーマについて予習を行い、配布されたレジュメに目を通し、授業当日に積極的に質疑や討論を行えるようにしておくこと。</p>				
【課題の種類・内容】				
担当箇所についてのプレゼンテーション、レポートの作成				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中に発表に対してコメントを行う。				
【成績評価方法・基準】				
事前準備を含めた授業への取り組み・授業後のミニ・レポート(70%)、期末レポート(30%)で評価を行う。				
【履修上の注意】				
発達心理学と様々な障害についての基礎知識が必要になる。参考書欄に示すような学部レベルの入門的テキストを通読して臨むこと。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	投影法特論	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		後期		
担当教員名	浦田英範			
【講義の到達目標及びテーマ】				
ロールシャッハ法(片口法)のスコアリングと解釈法をマスターすることを目的とする。				
【講義概要】				
ロールシャッハ法(片口法)の施行法、スコアリング、解釈法を学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション、アセスメントについて			
2	ロールシャッハ法(片口法)の歴史について			
3	ロールシャッハ法(片口法)の施行法Ⅰ(道具の配置、記録用紙)			
4	ロールシャッハ法(片口法)の施行法Ⅱ(教示、記録の方法)			
5	ロールシャッハ法(片口法)のスコアリングⅠ(特記事項について)			
6	ロールシャッハ法(片口法)のスコアリングⅡ(領域、決定因)			
7	ロールシャッハ法(片口法)のスコアリングⅢ(反応内容、副分類について)			
8	ロールシャッハ法(片口法)の基礎解釈Ⅰ(解釈の基本的な考えについて)			
9	ロールシャッハ法(片口法)の基礎解釈Ⅱ(解釈仮説について)			
10	ロールシャッハ法(片口法)の基礎解釈Ⅲ(形式分析について)			
11	ロールシャッハ法(片口法)の基礎解釈Ⅳ(継列分析について)			
12	レポートの書き方			
13	事例研究(不登校の事例)			
14	総括			
【テキスト】				
片口安史著「改訂・新心理診断法」1987年 金子書房 (ISBN978-4-7608-2548-6)				
【参考書・参考資料等】				
小野和雄著「ロールシャッハ・テスト-その実施、・解釈・臨床例-」1991年 川島書店 (ISBN4-7610-0443-6)				
【事前・事後学習、時間等】				
片口安史著「改訂・新心理診断法」のロールシャッハ法の歴史を前もって読んでおくこと。事後は習ったことの復習をしておくこと。(1時間程度)				
【課題の種類・内容】				
テーマについてレジュメを作成すること。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レジュメについてプレゼンをしディスカッションを行う。このときフィードバックも行う。				
【成績評価方法・基準】				
レジュメ作成40%、講義の発言40%、レポート20%				
【履修上の注意】				
積極的にディスカッションは参加すること。わからないことはきちんと質問すること。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	グループ・アプローチ特論	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	井上久美子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本講義では、心理職に求められるグループ・アプローチについて概説し、また実際にグループ・アプローチを経験しながら学ぶことで、以下の能力を修得することを目標とする。</p> <p>①グループ・アプローチに関わる基本的知識及び技法について理解し実践することができる。</p> <p>②グループ・アプローチを用いるうえで必要とされる倫理意識や責任感について深く考えることができる。</p>				
【講義概要】				
<p>前半は、グループ・アプローチの基本を学び、臨床場面で用いられている様々なグループ・アプローチを取り上げ、それぞれのアプローチについて受講生による発表を行う。後半は、受講生自らがファシリテーターの役割をとり、どのように「個人」および「集団」をアセスメントし、グループを展開していくか、実際に役割をとるなかで体験的に考える。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション(グループ・アプローチとは、発表者決め)			
2	グループ・アプローチの基本			
3	様々なグループ・アプローチ①(エンカウンターグループ)			
4	様々なグループ・アプローチ②(認知行動療法)			
5	様々なグループ・アプローチ③(動作法)			
6	様々なグループ・アプローチ④(心理劇)			
7	発達障害児を対象としたグループ・アプローチ			
8	依存症患者を対象としたグループ・アプローチ			
9	ファシリテーターにおける基本的な原則			
10	ファシリテーター体験①(導入)			
11	ファシリテーター体験②(展開)			
12	ファシリテーター体験③(終結)			
13	ファシリテーター体験④(シェアリング)			
14	まとめ			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
<p>安部恒久(2010). グループアプローチ入門—心理臨床家のためのグループ促進法 誠信書房</p> <p>高野聖(2013). サイコドラマの技法—基礎・理論・実践 岩崎学術出版社</p> <p>國分康孝(総編集)(2004). 構成的グループエンカウンター事典 図書館文化</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備にあたって自分が担当するグループ・アプローチについての関連論文及び書籍を十分に調べ、担当内容をよく理解し、分かりやすい発表になるよう準備を行う(3時間以上)。 ・他者の発表内容やグループ実践について、体験を振り返り、また自ら関連する論文及び書籍を十分に調べ、内容の理解を深める(2時間程度)。 				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
<p>授業中の発表内容、及びプレゼンテーションの仕方による評価(40%)、ファシリテーターの準備およびグループ実践への参加態度(40%)、授業中に課すレポートの作成内容(20%)により、総合的に評価する。</p>				
【履修上の注意】				
<p>授業中に課す課題に意欲的に取り組み、グループ・アプローチの実践にも意欲的な態度で臨むこと。</p>				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	細川美幸			
【講義の到達目標及びテーマ】				
スクールカウンセラーの職務(学校現場への参入、アセスメント、相談援助、コンサルテーション、コーディネーション、守秘義務の考え方等)について学び、児童・保護者との関係のつくりかた、教職員との連携について、体験と事例を通して理解することが目的である。				
【講義概要】				
教師とは異なる専門性を持つ心理士が学校に入り、発達支援、臨床心理学的支援を行う意義と、個別支援やコンサルテーション等の支援方法について理解を深めることを目的とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション／生徒の表現を受け取る【演習①】			
2	教育相談、スクールカウンセリング1／関係づくり【演習②】			
3	教育相談、スクールカウンセリング2／アセスメント～表現～【演習③】			
4	教育相談、スクールカウンセリング3／アセスメント～知能検査～【演習④】			
5	教育相談、スクールカウンセリング4／事例から学ぶ①			
6	日本のスクールカウンセラー制度創設に至るまで・3段階の心理教育的援助サービス／【発表・検討①】			
7	学校と地域のアセスメントより学校の援助ニーズを把握する/不登校・引きこもりへの訪問援助について【発表・検討②】			
8	発達障害・知的障害等を有する児童生徒の理解と援助、自称行為を呈する児童の理解と支援【発表・検討③】			
9	学校の課題2／いじめ・多文化理解・性別違和を有する、またはLGBTの児童生徒の理解と援助【発表・検討④】			
10	学校の課題3／チーム学校と他分野協働・SSWとの協働・学級経営・児童虐待への対応【発表・検討⑤】			
11	特別支援教育における教育相談とスクール学校臨床／事例から学ぶ②			
12	学校における心理教育1／スクールカウンセラーの心理教育演習①			
13	学校における心理教育2／スクールカウンセラーの心理教育演習②			
14	学校に事件が起こった時／危機介入			
【テキスト】				
授業回の内容に応じて、その都度指示する。				
【参考書・参考資料等】				
「スクールカウンセラー その理論と展望」村山正治・山本和郎編(ミネルヴァ書房) 「臨床心理学全書12 学校臨床心理学」倉光修編(誠信書房) 「学校が求めるスクールカウンセラー—アセスメントとコンサルテーションを中心に」村瀬嘉代子(監修) 東京学校臨床心理研究会(編)				
【事前・事後学習、時間等】				
授業前に指示された文献は必ず読んでくること(1時間)。 授業後に指示された課題や考察についてレポート化し、期限までに提出すること(1時間)。				
【課題の種類・内容】				
演習の準備、振り返りレポート、文献調べ				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業内コメント				
【成績評価方法・基準】				
事前準備を含めた授業への取り組みへの積極性(50%)、授業後の課題レポート(50%)				
【履修上の注意】				
なし				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	富永 容子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
犯罪・非行、犯罪被害者及び家事事件についての基礎知識、さらに司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援に対して学んだことを踏まえて、実践的な理論と支援について深める。				
【講義概要】				
犯罪に関する制度、機関、等を知り、犯罪が生じるメカニズムを理解し、更生に向けた心理的支援を学ぶ。また家事事案において家庭内紛争と子どもへの心理的支援を学ぶ。さらに、被害者支援についても学ぶことが必要である。これらをロールプレイにより理解を深めていく。(前前半は、ゲストティーチャーとして元家庭裁判所調査官・臨床心理士である山崎一馬先生をお迎えし、講義して頂く。)				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	非行や犯罪が生じるメカニズムの理解—相模原障害者殺傷事件を通して(事前レポートと討論)			
2	各種犯罪理論と生物、心理、社会の視点からの理解:秋葉原無差別殺傷事件のメカニズムとその心理的支援(事前レポートと討論)			
3	粗暴犯、薬物犯、性犯罪の特徴及び犯行のメカニズム、更生に向けた心理学的支援等(事前レポートと討論)			
4	薬物犯、性犯罪者への更生に向けた心理学的支援や関係機関などの連携:ロールプレイを中心に			
5	家族の変貌と家族の各発達段階から見た家庭内紛争(事前レポートと討論)			
6	家庭紛争中の子どもや家族の心理(事前レポートと討論)			
7	家庭紛争中の子どもや両親に対する心理的支援:ロールプレイを中心に			
8	矯正・更生保護における心理的支援(1)基礎知識を確認するとともに、事例を通して理解を深める。(事前レポート:自ら調べて基礎となる知見をまとめ、疑問点等について述べる)			
9	矯正・更生保護における心理的支援(2)ロールプレイ、ディスカッションを行い、より実践に近づく。			
10	犯罪被害者への心理的支援(1)基礎知識(被害者支援の現状と課題、理論)の確認とディスカッションを行う。(事前レポート:自ら調べて基礎となる知見をまとめ、疑問点等について述べる)			
11	犯罪被害者への心理的支援(2)①事例を通して学びを深める(被害者・被害者家族などへの支援について)。②コメントペーパー記入(授業を通して学んだことを振り返り、言語化する)。			
12	犯罪被害者への心理的支援(3)①ロールプレイ、ディスカッションを行い、実践への準備を行う。②コメントペーパー記入(前述のとおり)			
13	被害者支援の関係機関等との連携や支援者へのケアの重要性について学ぶ・コメントペーパー記入(同上)			
14	これまでのまとめと振り返りをする(質問や疑問点、感想等についてまとめ、前日までに担当教員へメール等で送信しておくこと)			
【テキスト】				
なし。適宜提示する				
【参考書・参考資料等】				
「犯罪心理学」越智啓太著、サイエンス社2012。「犯罪心理学」大淵憲一、培風館2006。「ケースで学ぶ犯罪心理学」越智啓太、北大路書房2013。「あしたてんきになあれ」薩摩奈々作、永松美穂子絵、未知谷2005。「ココ、きみのせいじゃない—はなれてくらすことになるママとパパと子どものための絵本」ウィッキー・ランスキー著、中川雅子訳、太郎次郎社エディタス2004。「はじめての認知療法」大野裕著、講談社現代新書。「非行臨床の技術—実践としての面接・ケース理解・報告—」橋本和明、金剛出版2011。「性暴力の理解と治療教育」藤岡淳子著、誠信書房2006。「盲信—相模原障害者殺傷事件」朝日新聞取材班、朝日新聞出版2017。「秋葉原事件—加藤智大の軌跡」中島岳志、朝日新聞出版社2011。				
【事前・事後学習、時間等】				
事前に指示された参考文献や資料等を読み、レポートを作成し発表する準備をすること。学習したことを自分なりにまとめてレポートを作成すること。(3時間程度)				
【課題の種類・内容】				
1回目に提出するレポート課題は、「相模原障害者殺傷事件」の参考文献や資料等を読み、事件の社会的背景や犯罪のメカニズムを考察する。また、各授業に課題を指定するので事前レポートやコメントペーパーを提出する。【事前レポート作成と提出に関する留意点:上記の各回に示されている事前レポートのテーマは、前の週の授業中に提示する。字数は指定しない。提出方法は、次の授業の前日までに担当教員へメール等にて送信する(送信先は授業中に提示)。】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業時間で提出した課題やコメントペーパーについてフィードバックし討論をする。				
【成績評価方法・基準】				
授業への参加・講義中のディスカッション(50%)、レポート課題・コメントペーパー(50%)で評価する。				
【履修上の注意】				
欠席をしないこと。授業では質問や意見を出して積極的に参加すること。自分なりの視点で疑問を持ち、問いを立てることを心がけて欲しい。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	産業臨床心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	小川 邦治			
【講義の到達目標及びテーマ】				
職場のメンタルヘルス対策の変遷を知ることで組織と個人の問題がどのように発生するのか、それぞれにどのように対応するのかを理解する。また、キャリア発達の観点から労働者の心の問題を理解し、その支援の方法について理解する。				
【講義概要】				
この講義は履修生の発表、担当教員の解説、及びディスカッションで構成される。シラバスの流れに沿い、発表担当者は事前に指定されたキーワード(オリエンテーション時に発表の予定)を含む当該分野について調べて発表する。 本授業は、一部回数を遠隔で実施する(履修者には別途詳細を連絡)場合がある。なお、遠隔授業を行う回は、主にMoodle及び電子メールを用いたオンデマンド型コースまたはオンデマンド・コンテンツに同時双方向テレビ会議システムを組み合わせた型とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション: 産業臨床心理学とは 発表担当者決定			
2	職業性ストレス理論1: 一般ストレス理論, コーピング, NIOSH職業性ストレス理論			
3	職業性ストレス理論2: 欲求-コントロール理論, 職場におけるストレス状況の把握			
4	職場のメンタルヘルス対策の歴史1: 1960~2000年初期			
5	職場のメンタルヘルス対策の歴史2: 2000年~現在			
6	産業領域で必要な法律知識			
7	ストレスチェック制度と公認心理師の役割			
8	職場不適合問題とその対応1: 職業性ストレス障害とその対応			
9	職場不適合問題とその対応2: 職業性トラウマとその対応			
10	職場不適合問題とその対応3: 復職支援とリワークプログラム			
11	職場・他職種との連携・協働, 実践現場(企業内相談室, EAP, 公的機関, 病院など)			
12	キャリア発達とその理論1: シヤイン, スーパーのキャリア理論			
13	キャリア発達とその理論2: クランボルツ, サビカスのキャリア理論			
14	まとめと確認テスト			
【テキスト】				
指定しない。				
【参考書・参考資料等】				
適宜指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
発表の担当者となった場合には、責任をもって発表資料及びプレゼンテーションの準備をして臨むこと(3時間程度)。 発表担当者は、授業で問題になった点や答えられなかった質問があれば、調べて次回報告すること(1時間程度)。 学んだことを復習し、要点を整理すること(1.5時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
最終回に確認テストを行う。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
テストは授業内で答え合わせを行い、ディスカッションによって定着を図る。				
【成績評価方法・基準】				
発表の内容, 受講態度, 討議, まとめの際に実施する試験によって評価する。				
【履修上の注意】				
心理臨床の世界では近年急速に重要性が高まってきている分野であり、社会の動きに常に関心を持ちながら臨んでいただきたい。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	岡村 尚昌			
【講義の到達目標及びテーマ】				
1. 到達目標:心身の健康づくりのための生物・心理・社会的アプローチの理論と実践的スキルを習得することを目標とする。 2. テーマ:健康心理学に関わる諸理論と心の健康教育に関する理論と実践				
【講義概要】				
本講義は、健康心理学の実際について、様々な理論、技法について学ぶと同時に、心身の健康の維持増進や心身疾患の予防に対する健康心理学的支援について具体的に講義する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション、健康心理学の対象・範囲			
2	ストレスと健康に関する諸理論			
3	健康心理学の生物-心理-社会モデル			
4	健康行動と生活習慣の形成			
5	健康教育とその実践			
6	パーソナリティと心身の健康			
7	生活習慣と心身の健康			
8	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援			
9	学校場面における心理社会的課題及び必要な支援			
10	産業場面における心理社会的課題及び必要な支援			
11	災害時に必要な心理的支援			
12	健康心理アセスメントの実際			
13	健康心理学カウンセリングの実際			
14	まとめ			
【テキスト】				
特に指定しない。				
【参考書・参考資料等】				
適宜資料を配布する。				
【事前・事後学習、時間等】				
心理職の活躍が期待される各分野の仕事内容、対象、心理職の役割などについて事前に調べ、理解を深めておくこと。 配布プリントの内容を事前に予習する(30分)。講義で学んだ内容や専門用語を整理し、それらの意味を理解する(30分)。				
【課題の種類・内容】				
講義期間中に行われる小テストおよび各回の感想によって評価する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
講義の中でフィードバックする。				
【成績評価方法・基準】				
講義への参加状況、ディスカッションに対する意欲や参加態度から総合的に評価する。				
【履修上の注意】				
講義をよく聴き、積極的にディスカッションに参加してください。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	進藤啓子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
臨床心理学関連(テーマに関する)の最新動向および研究方法論を理解し、自分でテーマから調査および事例研究の方法を学習し、データの分析を行い修士論文の作成が出来ることを目標とする。				
【講義概要】				
前期は臨床心理関連テーマの最新動向および研究方法論について学習する。後期はテーマを絞るとともに文献レビュー、論点の明確化、調査方法の選択、等を習得し、修士論文の研究計画を作成する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	オリエンテーション	15	研究テーマの焦点化1:過去の文献研究発表	
2	論文読み1:トラウマ関連論文の紹介	16	研究テーマの焦点化2:現在の文献研究発表	
3	論文読み2:ストレスマネジメント	17	研究テーマの焦点化3:テーマの決定	
4	研究テーマの検討1:研究テーマの選び方	18	論文作成の方法1:調査研究	
5	研究テーマの検討2:事例と調査・実験研究	19	論文作成の方法2:事例研究	
6	研究テーマの検討3:テーマの振り返り	20	論文作成の方法3:テーマに基づく研究法の選択	
7	研究テーマの検討4:テーマの選択	21	研究計画の策定1:テーマに基づく目的の作成	
8	文献調べ1:過去の研究論文調べ	22	研究計画の策定2:方法の選択	
9	文献調べ2:現在の研究論文調べ	23	研究計画の策定3:方法の実施	
10	論文作成1:論文とは何か	24	研究計画の策定4:データの整理	
11	論文作成2:研究の倫理について	25	研究計画の策定5:結果の整理	
12	研究成果報告1	26	研究計画の策定6:考察の検討	
13	研究成果報告2	27	研修成果報告1	
14	研究成果報告3	28	研修成果報告2	
【テキスト】				
なし。適宜提示する				
【参考書・参考資料等】				
下山晴彦、編著「臨床心理学研究の技法」福村出版、松井豊、著「心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社、2010。				
【事前・事後学習、時間等】				
事前に指示した課題について学習しておく。演習で学んだ内容の問題点の確認と修正を行う。				
【課題の種類・内容】				
自分のテーマに関しての課題が課されるので、自分のペースで作成する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
次の演習時間に、自分のテーマについての課題を発表してもらい、それについてフィードバックする。				
【成績評価方法・基準】				
参加態度と課題レポートによる総合評価で行う。				
【履修上の注意】				
発表・質問等、積極的に取り組むこと。				

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	浦田英範				
【講義の到達目標及びテーマ】					
臨床心理学関連の文献研究を行う。その文献研究を通して、研究テーマを明確にするとともに、その研究方法や対象などの研究デザインを立てることを目的とする。					
【講義概要】					
前半は津川律子他著「臨床心理学研究実践マニュアル」(2011)を教科書とし、臨床心理学の研究の基礎を復習する。その後自分の興味のある臨床心理学の文献研究を行う。その都度レジュメを作成し発表をし、それに対してディスカッションを行う。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション		15	文献研究と文献のプレゼンテーション⑥	
2	臨床心理学に研究は必要か？		16	文献研究と文献のプレゼンテーション⑦	
3	誰もが研究するために		17	研究デザインのスケジューリング	
4	臨床心理学の基本		18	研究デザインの準備①問題の明確化	
5	臨床心理学の倫理		19	研究デザインの準備②目的の明確化	
6	研究を進めるための6つのステップ		20	研究デザインの準備③方法の明確化	
7	研究発表のスタイルー調査研究編ー		21	研究デザインの準備④尺度の選択と作成	
8	研究発表のスタイルー事例研究編ー		22	研究の実施①データの収集	
9	文献研究と文献のプレゼンテーション①		23	研究の実施②データの整理	
10	文献研究と文献のプレゼンテーション②; 調査研究		24	研究の実施③データの分析	
11	文献研究と文献のプレゼンテーション③; アクションリサーチ		25	研究の実施④データの考察	
12	文献研究と文献のプレゼンテーション④; 事例検討		26	研究のプレゼンテーション、研究のまとめ	
13	文献研究と文献のプレゼンテーション⑤; 事例検討		27	研究のまとめと要約作成	
14	研究テーマと手続きについての検討		28	研究成果の報告	
【テキスト】					
津川律子他著「初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル(第2版)」(金剛出版 2011年)					
【参考書・参考資料等】					
松井 豊 著「改訂新版 心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くために」(河出書房新社 2010年)					
松尾 太加志他著「誰も教えてくれなかった因子分析ー数式が絶対出てこない因子分析入門ー」(北大路書房 2002年)					
【事前・事後学習、時間等】					
事前、事後に指示された課題を行う。(1時間程度)					
【課題の種類・内容】					
各テーマのレジュメの作成。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
作成したレジュメを元にプレゼンを行い、ディスカッションを行う。そのときにフィードバックも行う。					
【成績評価方法・基準】					
演習への積極的参加度(30%)、発表の仕方(40%)、討議の仕方(30%)に基づいて評価する。					
【履修上の注意】					
演習なので毎回出席が原則である。また、遅刻は特別の事情がある場合、あるいは、授業開始後15分以内の場合以外は出席と認めない。					

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学演習	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語	
担当教員名	柳澤 さおり				
【講義の到達目標】					
<p>(1)組織行動に関わる日本語文献、英語文献を理解できる。 (2)研究テーマに関して明らかにしたい事柄に基づき、研究計画、データの収集・分析、分析への考察を行うことができる。 (3)総合的、多角的視点から、研究結果の社会への応用を考えることができる。</p>					
【講義概要】					
<p>学生自身の関心のあるテーマの選定、そのテーマに関する文献レビュー、論点の明確化等を行うことにより、学生が自らの修士論文の研究計画を策定する。</p>					
【授業計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション		15	研究テーマの論点の検討(1):問題意識の検討	
2	研究テーマの発見(1):問題意識の確認		16	研究テーマの論点の検討(2):問題意識と研究実施	
3	研究テーマの発見(2):問題意識の検討		17	研究テーマの論点の検討(3):研究テーマの決定	
4	研究テーマの発見(3):関連論文の検索		18	研究計画の策定(1):目的	
5	研究の進め方(1):研究協力者		19	研究計画の策定(2):方法	
6	研究の進め方(2):量的研究		20	研究計画の策定(3):結果	
7	研究の進め方(3):質的研究		21	研究計画の策定(4):考察	
8	研究の進め方(4):事例研究		22	予備調査の計画策定(1):研究協力者	
9	研究の進め方(5):研究倫理		23	予備調査の計画策定(2):方法の検討	
10	文献レビュー(1):量的研究		24	予備調査の計画策定(3):データの分析	
11	文献レビュー(2):質的研究		25	予備調査の計画策定(4):予備調査から本調査へ	
12	文献レビュー(3):事例研究		26	予備調査の準備(1):調査用紙の作成	
13	過去の研究と問題意識の関連検討		27	予備調査の準備(2):調査用紙の修正	
14	前期研究成果の報告		28	後期研究成果の報告	
【テキスト】					
なし					
【参考書・参考資料等】					
なし					
【準備学習等についての具体的な指示】					
事前に指示された課題(研究テーマに関する文献レビュー、レジュメ作成、レポート作成など)を行う。					
【事後学習等についての具体的な指示】					
話し合った内容をもとに、問題点等を適宜修正、再検討を行う。					
【成績評価方法・基準】					
課題の内容に基づいて評価を行う。					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	花田 利郎				
【講義の到達目標及びテーマ】					
本講義は人間科学研究科臨床心理学専攻のカリキュラムポリシーにおける「特殊研究」に位置づけられ、ディプロマポリシーの1及び2を修得するための科目である。臨床心理学に関連するテーマとして、修士論文作成の研究計画の策定ができることを目標とする。					
【講義概要】					
自分自身の興味関心をもとに臨床心理学の最新動向を踏まえてテーマを設定する。テーマに関わる先行研究のレビューを行いながら、研究方法の検討、論点の明確化を行い、学生自らが修士論文の研究計画を策定していく。受講者の発表を踏まえて授業は展開する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション		15	研究のスケジュールリング	
2	研究テーマの発見① 問題意識の確認		16	研究の準備① 協力者の確保	
3	研究テーマの発見② 問題意識の検討		17	研究の準備② 記録用紙の作成	
4	研究テーマの発見③ 関連論文の検索		18	研究の準備③ 質問紙の作成	
5	文献のレビュー① 研究協力者		19	研究の準備④ その他	
6	文献のレビュー② 研究方法(量的研究)		20	研究の実施 データの収集	
7	文献のレビュー③ 研究方法(質的研究)		21	研究の実施 データの整理	
8	文献のレビュー④ 研究方法(事例研究)		22	研究の実施 データの分析	
9	文献のレビュー⑤ 研究倫理		23	研究の実施 データの考察	
10	研究テーマの検討① 問題意識の確認		24	研究のまとめ①結果の考察	
11	研究テーマの検討② 問題意識の検討		25	研究のまとめ②研究の問題点	
12	研究デザインの検討① 研究協力者		26	研究のまとめ③今後の課題	
13	研究デザインの検討② 研究方法		27	研究のプレゼンテーション	
14	研究成果の報告		28	研究成果の報告	
【テキスト】					
なし					
【参考書・参考資料等】					
心理臨床学研究、教育心理学研究、特殊教育学研究、発達障害研究、LD研究、自閉症スペクトラム研究、等の学会誌 松井豊著『改訂新版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社, 2010 津川律子・遠藤裕乃著『初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル』金剛出版, 2004 佐藤郁哉著『質的データ分析法 理論・方法・実践』新曜社, 2008 浦田昌則・脇田貴文著『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書, 2008 平井明代編著『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版』東京図書, 2017					
【事前・事後学習、時間等】					
発表の事前準備及び発表後の問題点の再検討においては積極的に図書館を活用し、先行研究にあたること。毎回4時間程度の事前・事後学習時間が必要である。					
【課題の種類・内容】					
文献レビュー、プレゼンテーション用資料の作成					
【課題に対するフィードバックの方法】					
授業中に発表に対してコメントを行う。					
【成績評価方法・基準】					
提出された課題(80%)と課題への取り組み方(20%)					
【履修上の注意】					
授業を実りあるものとするために、授業以外の時間において十分に準備を行うこと					

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学演習		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	井上久美子				
【講義の到達目標及びテーマ】					
<p>本講義では、以下の能力を修得することとを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理臨床の中でも、特に発達臨床に焦点を当て、実践活動の水準の向上に資する臨床心理学的研究を実践する力を習得する。 ・研究の遂行を通して、倫理意識や責任感について深く考えることができる。 					
【講義概要】					
<p>前期は、先行研究をレビューし、研究テーマを探すとともに、研究実践に関する基本的な知識を学ぶ。後期は、具体的な研究計画を作成し、予備調査を実施する。最後に1年間を通しての研究成果を発表する。</p>					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション		15	研究テーマと研究計画の論点の見直し	
2	研究テーマの探し方		16	研究テーマと実践④(ロールプレイ)	
3	論文の読み方		17	研究テーマと実践⑤(動作法)	
4	研究テーマと実践①(心理劇、ウォーミングアップ)		18	研究法に関する基本的知識④(統計法)	
5	研究テーマと実践②(心理劇、劇化、シェアリング)		19	研究法に関する基本的知識⑤(結果)	
6	研究テーマと実践③(動作法)		20	研究法に関する基本的知識⑥(考察)	
7	研究テーマの発表		21	実験・調査の実施	
8	研究テーマの書き方(問題と目的)		22	データのまとめ方	
9	研究テーマの見直し(問題と目的)		23	データの分析	
10	研究テーマの見直しと発表		24	結果のまとめ	
11	研究法に関する基本的知識①(質問紙法)		25	考察の視点	
12	研究法に関する基本的知識②(観察法)		26	考察のまとめ	
13	研究法に関する基本的知識③(倫理の問題)		27	研究成果発表	
14	前期研究成果の発表		28	研究成果発表の振り返り	
【テキスト】					
なし					
【参考書・参考資料等】					
随時紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
<p>修士論文を進めるにあたっては、授業時間外で論文のレビュー、研究の実施、研究の分析が求められる。計画的に進めていくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表にあたっては、先行研究を十分にレビューし、それらを理解し、纏めながらレジュメを準備すること(3時間以上)。 ・演習を通して指摘された事項について、自ら課題を見出し、それに関する資料等を参照し、修正を重ねていくこと(2時間程度)。 					
【課題の種類・内容】					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
レジュメの作成、発表内容、質疑応答への態度、講義中の実践への態度から総合的に評価する。					
【履修上の注意】					
演習であるので、出席することが原則である。					

2022年度 大学院シラバス

人間科学研究科 臨床心理学専攻

講義科目名	臨床心理学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	小川邦治			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本講義では、主にストレスと適応、産業臨床心理学、およびTA理論の基礎研究に焦点を当てて研究テーマ具体化し、研究計画を立て、修士論文作成のための準備をする。				
【講義概要】				
履修者の問題意識を出発点とし、ディスカッションを通じて研究フェイズ毎に必要な支援を行う。文献レビュー、レビューに基づく研究テーマの具体化、テーマ検討のための手続きの策定、予備調査の実施を行う。 本授業は、一部回数を遠隔で実施する(履修者には別途詳細を連絡)場合がある。なお、遠隔授業を行う回は、主にMoodle及び電子メールを用いたオンデマンド型コースまたはオンデマンド・コンテンツに同時双方向テレビ会議システムを組み合わせた型とする。				
【講義計画内容】				
NO	講義計画	NO	講義計画	
1	全体のオリエンテーション	15	研究テーマと研究計画の再検討:課題の解決	
2	研究オリエンテーション:出発点の共有	16	研究テーマと研究計画の再検討:課題の解決	
3	研究オリエンテーション:研究のタイプと研究の意味	17	研究計画の具体化:目的と意義	
4	研究オリエンテーション:年間計画の検討	18	研究計画の具体化:方法/研究協力者	
5	研究オリエンテーション:倫理的側面からの検討	19	研究計画の具体化:手続きの検討・倫理的問題の解決	
6	研究テーマの探索:文献レビューの方法	20	研究計画の具体化:データの処理方法の確認	
7	研究テーマの探索:文献検索とディスカッション	21	研究計画の具体化:データの処理方法の確認	
8	研究テーマの探索:文献検索とディスカッション	22	予備調査:計画	
9	研究テーマの探索:文献検索とディスカッション	23	予備調査:実施	
10	研究テーマの探索:文献検索とディスカッション	24	予備調査:実施	
11	文献レビューに基づく研究テーマの具体化	25	予備調査:データ分析と研究計画の再検討	
12	文献レビューに基づく研究テーマの具体化	26	予備調査:データ分析と研究計画の再検討	
13	研究テーマの具体化と研究のタイプの検討	27	一年間の研究成果のまとめ	
14	前期研究成果の発表と課題の発見	28	後期研究成果の発表と課題発見	
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
随時紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
文献レビュー、レジュメ作成、レポート作成など、ディスカッションに必要なと思われる準備を自ら行うこと(3時間)。 演習内で指摘された事項について検討し、作業を進めること(3時間)。				
【課題の種類・内容】				
ディスカッションを通じて浮かんできた研究上の課題について次回までに検討して持ってくる。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業内のディスカッションによってフィードバックする。				
【成績評価方法・基準】				
研究の到達度、中間発表会の内容、およびディスカッションによって評価する。				
【履修上の注意】				
演習であるので、出席することが原則である。				

西南学院大学 大学院課 大学院事務室

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL 092-823-3368

FAX 092-823-3348

e-mail gra-jimu@seinan-gu.ac.jp

